



第53回

旭川北高等学校同窓会

この日
この時



42期・39期・36期・33期・30期・27期……

あずき or ワインレッド?

41期・38期・35期・32期・29期・26期……

じみなブルー?

40期・37期・34期・31期・28期・25期……

カエル or グリーン?

旭川市中・市高 北校同窓会 総会・懇親会

とき：2018年8月11日(土) 午後6時より

ところ：星野リゾート ^{オモセブン}OM07 旭川(旧旭川グランドホテル) 3階グランドホール
(旭川市6条9丁目)



市中



市高



北高

主催/第53回旭川北高等学校同窓会実行委員会

校歌

明るく普通の速さで

1.あ た — ら し — き ぶ ん か — の は な の さ
 3.か ぐ — わ し — き み ど ち — の ゆ う べ は

ん — ら ん と の や が て か お ら む み
 く — よ う の き げ な き く あ さ さ ま

ず — き — よい — く や た ま — む ら さ き ら に が め
 ゆ — ひ — い — で た ま — す む さ こ ら が ま

ぐ ー り ー た ー る ま な び の に わ よ あ
 ど ー い ー し ー て ほ ま れ を う た う み

ふ る る よ ろ こ こ び の い ぎ て を と り て や
 よ る み よ そ こ の い ゆ く て は あ ら た や

む な き — あ の ゆ み に よ こ ー と り を と め む
 わ な き — の ゑ み に ひ か ー を と ゑ む

校歌

木村五一 作詞
 津田 甫 作曲

一、

新しき文化の華の
 燦爛とやがて薫らむ
 水清く山紫に
 めぐりたる学びの庭よ
 溢れる歓喜いぎ手を把りて
 止むなき向上に真理を尋めむ

二、

逞しき腕の力は
 遠つ代の祖に承けたり
 汗あゆるその勤勞の
 成せる郷土豊けき穰
 とこしへ榮行くこの世に生きて
 止むなき教養清純を讃めむ

三、

かぐはしき緑の夕
 白瑤の樹水咲く朝
 眉秀で魂澄む子等が
 まどろして誉を謳ふ
 見よ見よ祖国の前途は新
 止むなき希望に光明を添へむ

2018

あの日 あの時

もくじ
contents

01	同窓会会長あいさつ
02	学校長あいさつ
03	平成29年度会務・会計報告
04	同窓会規約
05	札幌・東京同窓会から
06	第42期恩師の近況
10	北高今昔（校舎・風景）
11	特集「同窓生の活躍」
17	招待期
18	同窓生から
19	今春の進路状況
20	北高NOW（部活動報告）
27	同窓会役員及び幹事
29	実行委員長・次期当番期あいさつ



あの日あの時、 輝いていた自分をみつけて

北海道旭川北高等学校同窓会会長

尾崎 信彦（北高25期）

会員の皆様、何時も同窓会活動に深い御理解と御協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。

昨年の同窓会総会で、もう1期2年間、同窓会会長をさせていただくことになりました。

微力ながら、同窓会活動に尽力をつくしたいと思しますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

今年の同窓会は実行委員長の細山崇さんをはじめ42期生の皆さんに、あの日あの時というキャッチコピーで、北高同窓会総会及び、懇親会のお手伝いをお願いしております。

良い年になることを期待しております。

さて、今年の卒業生も非常に頑張つて、現役で京都大学や北大医学部なりに旭川医大の合格をはじめ、100名を超える卒業生が国立大学に進学しました。本当に頼もしく思います。

我が北高は文武両道の学校であることは云うまでもありませんが、昨年は女子アーチェリー部が団体で全国優勝する偉業を達成しました。

また、部員のなかには2年後の東京オリンピック出場を狙える部員もいると聞いております。これも本当にうれしく思います。

ところで、今年も4月に新入生の入学式に出席させていただきました。今年には普通科が240名でしたが、おどろいた事に今年は男女の比率がいつもと逆転し、2対1ではなく1対2になっておりました。つまり1クラス40名

のところ、男子が12〜13名程であとは女子生徒と云うことです。山根校長先生に聞いた所、普段真面目な女子生徒が内申点が高く入学に有利なのではないかと云うことでした。

しかし、今後野球やサッカーなど男子生徒が主体となる部活はどうなってしまうのであろうか。次年度の男子生徒の頑張りに期待したいと思います。

北高同窓会総会や懇親会では、あの日あの時北高時代に輝いていた自分を思い出して、有意義な時間を過ごせるように願っております。

末筆ながら北高同窓会の皆様の御健康と御多幸、そして母校旭川北高等学校の発展を御祈念申し上げます、御挨拶とさせていただきます。



学校長あいさつ

北海道旭川北高等学校長

山根 克文

平成30年度第53回北海道旭川北高等

学校同窓会総会が盛大に開催されます
ことを、学校を代表いたしまして心よ
りお祝い申し上げます。尾崎信彦会長
をはじめ同窓会の皆様方には、日頃か
ら母校に対する愛情あふれるご支援と
叱咤激励をいただき厚くお礼申し上げ
ます。

さて、私は本年4月の人事異動で北
海道釧路北陽高等学校より赴任してま
いりました。微力ではありますが、北
高生の健全育成のためにその職責を果
たしていく所存ですので、今後とも同
窓会の皆様方のお力添えをよろしくお
願いいたします。

今年度は4月9日の入学式で257
名を迎え入れ、5月末日現在の生徒在
籍数は、全日制751名、定時制51名

となっております。今春卒業した生徒の
進路状況は、全日制では113名が現
役での国公立大学合格を果たし、名古
屋大学は6年ぶり、東北大学には4年
連続合格者を出しています。過年度卒
を含めると、京都大学は5年連続、旭
川医科大学医学科も4年連続で合格者
を輩出し、近年では大変素晴らしい結
果となっております。部活動についても
加入率は約90%に達し、5月の高体連
支部大会では、卓球女子団体とソフト
ボールが創立以来初の優勝を飾り、そ
の他、ソフトテニス、硬式テニス、男
子バレーボール、陸上、登山、水泳、
女子バドミントン、剣道、高文連では
放送局が全道大会に出場しています。
定時制では10名の生徒が就職をするこ

とができましたが、最後まであきらめ
ずに目標達成に向けた努力は立派でし
た。また、5月26日に行われた定時制
通信制上川支部大会では卓球部とバス
ケットボール部が全道大会出場権を獲
得し、十分な練習時間がとれない中で
良く頑張ってくれました。

結びになりますが、本校は再来年
に創立80周年の記念の年を迎えます。
これまでの伝統と歴史をしっかりと受
け継ぎながら、皆様の信頼と期待に応
える学校づくりを全力で推し進めてま
いりたいと考えておりますので、変わ
らぬご支援をよろしくお願いいたしま
す。

平成29年度会務報告

平成29年

4月10日 (月)	入学式 (尾崎会長)
5月13日 (土)	役員・幹事長会議 (ポスター・チケット配布) 旭川グランドホテル
6月15日 (木)	会計監査
同日	第3回役員会 (旭川グランドホテル)
7月8・9日 (土・日)	北高等学校祭 (同窓会露天参加)
8月12日 (土)	第52回同窓会総会・懇親会 (旭川グランドホテル) ゴルフコンペ
	学校祭収益金贈呈
9月30日 (土)	当番期引き継ぎ会議 (サン・アザレア)
同日	第1回役員会
10月6日 (金)	札幌同窓会総会 (役員5名参加)
12月	同窓会入会案内配付

平成30年

1月27日 (土)	第2回役員会・各期幹事会・合同新年会 (旭川グランドホテル)
2月	ノースウインド発行
2月28日 (水)	同窓会入会式 (全日制・定時制：役員出席)
3月1日 (木)	卒業式 (役員出席)
4月9日 (月)	入学式 (会長出席)
5月26日 (土)	役員・幹事長会議 (ポスター・チケット配布)
6月16日 (土)	会計監査
同日	第3回役員会 (星野リゾートOMO7旭川)
7月7・8日 (土・日)	北高等学校祭 (本年度は同窓会露天不参加)
8月11日 (土)	第53回同窓会総会・懇親会 (星野リゾートOMO7旭川) ゴルフコンペ
《今後の予定》	
9月 日	当番期引き継ぎ会議
同日	第1回役員会 (場所未定)
10月5日 (金)	札幌同窓会総会 (ホテル札幌ガーデンパレス) 18時～
12月	同窓会入会案内配付

旭川北高同窓会平成29年度一般会計決算書

収入の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 越 金	965,219	965,219	0	
2 同 窓 会 費	1,195,000	1,209,000	14,000	
①入 会 金	705,000	711,000	6,000	237名×3,000円
②終 身 会 費	490,000	498,000	8,000	249名×2,000円
3 ホームページ運営管理費	250,000	215,000	▲35,000	会券売上げ430枚×500円
4 雑 収 入	12	13	1	貯金利子
合 計	2,410,231	2,389,232	▲20,999	

支出の部

(単位：円)

区分	予算額	決算額	比較増減	摘要
1 総 務 費	1,270,000	1,200,454	▲69,546	
①事 務 費	20,000	10,000	▲10,000	消耗品費
②会 議 費	200,000	177,000	▲23,000	役員会、幹事長会等開催費
③通 信 費	35,000	32,320	▲2,680	切手、はがき、電話
④印 刷 費	20,000	10,000	▲10,000	会議開催案内状等印刷費
⑤慶 弔 費	30,000	0	▲30,000	香典、生花、弔電
⑥支 部 活 動 費	500,000	480,000	▲20,000	東京・札幌支部同窓会出席旅費、活動助成金
⑦広 報 費	240,000	233,280	▲6,720	同窓会ホームページ年間管理・運営費
⑧卒 業 記 念 品 費	160,000	204,840	44,840	卒業生記念品
⑨後 援 会 事 業 費	35,000	29,225	▲5,775	学校祭協力費
⑩雑 支 出	30,000	23,789	▲6,211	振込手数料、雑費
2 文 化 費	330,000	331,880	1,880	ノースウインド第25号印刷費、活動費
3 予 備 費	810,231	0	▲810,231	
合 計	2,410,231	1,532,334	▲877,897	

支出決算

(単位：円)

収入額	支出額	残 高
2,389,232	1,532,334	856,898

残額856,898円は次年度へ繰越

平成29年度特別会計決算書

(単位：円)

収入の部		支出の部		残 金
前年度繰越金	660,324	御招待者 (北高18期) 会費	156,000	次年度へ繰越 208,514
北高第18期御祝儀 (26名)	260,000	第53回総会準備金貸付	300,000	
第52回総会準備金返還	300,000	懸垂幕 (女子アーチェリー部インターハイ優勝)	70,864	
ストラップ販売 (15個)	7,500	記念品購入 (24個)	497,448	
タイピン販売 (2個)	5,000			
貯金利子	2			
合計	1,232,826	合計	1,024,312	

同窓会資産

(単位：円)

累計額	平成28年度 積立額	平成29年度 支出額	合計累計額	摘 要
8,314,425	3	0	8,314,428	積立額は郵便貯金利子

同窓会記念事業基金

(単位：円)

累計額	平成29年度 積立額	平成29年度 支出額	合計累計額	摘 要
2,255,433	200,022	100,864	2,454,533	実行委員会より寄付 (200,000)、郵便貯金利子 (22)、財団法人旭川北高会寄付 (100,000) /送金料 (864)

北海道旭川北高等学校

同窓会規約

第1章 総則

第1条 本会は、北海道旭川北高等学校同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて北海道旭川北高等学校の健全なる発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、その事務局を北海道旭川市花咲町3丁目北海道旭川北高等学校に置く。

第2章 事業

第4条 本会は、その目的達成のため、次の事業を行う。
(1) 会員の親睦を図ること。
(2) 会誌及び会員名簿の発行
(3) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

第3章 会員

第5条 本会は、次の各号に該当する者をもって構成する。
(1) 旭川市立中学校卒業生
(2) 旭川市立高等学校卒業生
(3) 旭川北高等学校卒業生
(4) (1)(2)(3)各号以外(転・退学した者)で、本会に入会を希望する者。

第4章 顧問

第6条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会において推挙する。
第7条 顧問は、役員会の諮問に応ずるものとする。

第5章 役員

第8条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
(2) 副会長 若干名
(3) 会計監査 3名
(4) 総務部長 1名
(5) 総務副部長 若干名
(6) 会計部長 1名
(7) 会計副部長 若干名
(8) 文化部長 1名
(9) 文化副部長 若干名
(10) 幹事長 各期毎1名

第9条 会長、副会長は、総会において会員の中から選出する。
ただし、再選を妨げない。
2 会長は、本会を代表し、会務を統理する。
3 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

第10条 第8条の役員のほか、各期各組から1名ずつ幹事を選出し、各期ごとに幹事長1名及び副幹事長2名を推薦し、会長はこれを委嘱する。ただし、定時制にあつては幹事長のみとすることができる。

2 幹事長は、同期を代表し、かつ統括する。
3 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故あるときはこれを代理する。
4 幹事は、各組の取りまとめにあたる。

第11条 会計監査は、総会において会員のなかから選出する。ただし、再選を妨げない。
2 会計監査は、本会の経理を監査する。
第12条 各役員任期は、2年とする。ただし、任期満了後でも後任者が決定するまでは、引き続きその任にあたるものとする。

第13条 総会は、定例総会及び臨時総会とし、議決は出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは議長これを決す。

2 定例総会の開催時期は、前年度の定例総会において決定する。
3 定例総会の運営は、各期毎の当番でこれにあたる。
4 臨時総会は、会長が必要と認めたときに、役員会の決定をもって会長がこれを招集する。

第14条 総会は、次のことを審議する。
(1) 会務の報告
(2) 決算の承認
(3) 規約の改正
(4) 役員を選出
(5) その他必要な事項

第7章 役員会及び幹事長会

第15条 本会の役員会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長をもって構成し、会長がこれを招集する。
2 本会の幹事長会は、会長、副会長、総務部、文化部及び会計部の部長、副部長及び幹事長をもって構成し、会長がこれを招集する。

第16条 役員会の議決は、出席者の過半数をもってし、賛否同数のときは、議長がこれを決する。
第17条 会員は、役員会に出席して意見を述べることが出来る。
第18条 本会には、次の部会を置き会務を分担する。

- (1) 総務部
ア 総会及び役員会に関する事。
イ 規約の改廃に関する事。
ウ 本会の渉外事務に関する事。
エ 支部の結成及び支部との連絡調整に関する事。

オ その他庶務一般に関する事。

(2) 会計部
ア 本会の会計に関する事。
(3) 文化部
ア 会誌及び会員名簿の発行に関する事。
イ 会員の親睦を図り、文化厚生活動に関する事。

2 部会には、部長1名、副部長若干名、委員若干名を置く。
3 前項の部長、副部長及び委員は、会長がこれを委嘱する。

第8章 会計

第19条 本会の経費は、入会金二、〇〇〇円、終身会費三、〇〇〇円及び寄付金をもってあてる。
第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり、翌年の3月31日をもって終わる。

第9章 事務局

第21条 事務局は、若干名の事務員を置き、本会の事務を処理する。
2 事務局員は、会長がこれを委嘱する。

第10章 規約の改正

第22条 本規約は、総会の承認がなければ改廃できない。
第19条 S 50 9 6 改正
第19条 S 53 9 2 改正
第19条 S 57 8 4 改正
第13条 2項 S 58 8 13 改正
第19条 S 63 8 7 改正
第19条 H 2 8 11 改正
第4条・第8条・第10条・第11条 H 4 8 8 改正
第15条・第17条・第18条・第20条 H 7 8 12 改正
第5条 4項 H 9 8 9 改正

第6章 総会

札幌支部



同窓会札幌支部の近況

札幌同窓会会長

武田 寛（北高16期）

第五三回北高同窓会総会・懇親会の開催おめでとございます。北高の前身である旭川市立中学校の創設が一九四〇年ですので、今年には北高設立七八年目となります。卒業生総数は2万名を超えていますのでと推察いたします。札幌支部の会員総数は推定ですが三千名くらいでしょうか。札幌支部総会・懇親会の参加者はこの四、五年二〇〇名前後で推移しており、若年層の参加者も増えてきております。札幌支部の行事としては十月に開催される総会・懇親会のみです。

個人情報保護法が平成一五年に施行されてから同窓会会員名簿も刊行されなくなりました。これは同窓会活動におきまして非常な痛手でありまして。因みに札幌支部では五年に一度名簿を発刊することになりました。今年がちょうどその年になります。昨年、八月二二日に旭川北高同窓会がありまして、その時の当番幹事（四二期）の中に札幌在住の参加者があり、札幌同窓会への参加をお願いしましたところ、七名もの出席をいただきました。今年もこの方法で札幌支部会員を増やしていきたいと思

ます。出来ましたら、後日、当番幹事の個人情報をお願いしたいのですが、個人情報保護法の関係で無理でしょうか。善処していただけるようよろしくお願いいたします。

一昨年、若手会員から名刺交換の場を設けてほしいとの要望がありました。事務局で検討した結果、総会当日に名刺を集めて（名刺に興味を記載）A3の用紙に貼り付けてコピーしたものを各テーブルに一冊ずつ配布する方式としました。残念ながらねらった成果が得られませんでした。若手会員にとりましては、同期出席者との親睦も大事ですが、参加者の勤務先がわかり、さらに同業種・異業種との交流等も同窓会に参加する意義であると思います。このことを踏まえて、今年は参加者名簿（卒業期・氏名・勤務先）を作成して当日配布しようと考えております。幹事の方にはお手数をお掛けしますがご協力よろしくお願いいたします。

末筆になりましたが、旭川北高同窓会の益々のご発展を祈念申し上げます。

東京支部



「東京から旭川を想う」

東京同窓会会長

柿林 博司（北高22期）

今年度から会長を拝命しましたので、宜しくお願い致します。また、役員会は以下のように改定しました。顧問・18期山口哲男、会長・22期柿林博司、副会長・25期鈴木隆文、幹事長・22期佐藤学、会計部長・22期高田範昭、事務局・18期石井英郎、22期井口守、菅原茂樹、石垣千恵子、矢澤良子、23期佐藤みき、27期田崎美香、36期伊藤幸永。新体制へのご支援を宜しくお願い致します。

東京同窓会は、これまでに18回（近年は隔年）開催しています。同窓会員は、青春時代を過ごした旭川を勉強や仕事のために止むなく離れ、現在は東京近郊に在住している方々が殆どです。皆が、「東京から旭川を想う」気持ちです。第18回は昨年9月に開催しました。旭川からのご来賓や同窓会員を合わせた、参加者数142名と盛況でした。懇親の部では、北海道手打ちそば試食会、新しい出会いを作る「どきどきゲーム」、校歌・応援歌斉唱など、来会者の皆さんが参加するイベントで楽しんで頂きました。

役員会や幹事会では、同窓会を活性化する取り組みをしています。第17回（2015年）の取り組みテーマは「参加者数の増大」でした。その施策の一つとして、名簿を連絡先の更新と共に全面改訂しまし

た。現状では、1期から63期まで500名以上の最新名簿が電子データ化されています。それが奏功して、参加者数は第16回が108名、第17回が139名、第18回が142名と増加傾向にあります。第18回（2017年）のテーマは「若手参加者の増強」でした。一般的に、同窓会への参加は定年になってから、という人が多いですが、同窓会を活性化するには若手の参加も重要です。そこで25期以降の若手幹事に精力的に同期へ参加を呼びかけて貰い、若手参加者数を前回11名から21名へと倍増しました。第19回（2019年予定）は、先輩後輩の縦の繋がりを活性化したいと思っています。

恥ずかしいことですが、自分は同窓会活動への参加は遅く、会社を定年退職した2013年からでした。初めて出席した幹事会で、大先輩達が非常に元氣よく活動されていることに驚かされ、また、大変興味深い様々な分野のお話を伺うことができ、同窓会の魅力に気付かされました。この魅力をもっと多くの方々にも享受して頂きたいと思っています。皆様のお近くに未だ東京同窓会に参加されていない方がおられましたら、当方へご一報頂きたく、宜しくお願い致します。

恩師の近況

Former teacher



あれから三〇年…

山本文朗

北高同窓会の皆様、大変ご無沙汰しております。担当幹事である四十二期生の皆様が入学されたのは平成元年だったと記憶しています。私も三校目の勤務校である旭川北高に着任、一年の担任として四十二期生の皆さんをお迎えすることとなりました。赴任して間もなかったこともあり、おそらく頼りない担任だったのではないかと思います。

あれから三〇年。当時を振り返ると、女子のスカート丈は長め、男子の上着は短ランが流行していました。護国神社の近くには手打ちラーメン屋さん（たしか「千秋」だったかなあ？）や蕎麦屋さんの「美登利」が営業していて、部活帰りの北高生や先生方の空腹を満たしてくれました。今となっては良い思い出です。

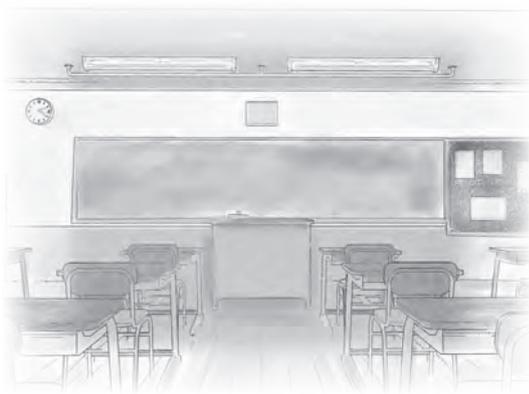
さて、私の近況ですが、平成

十六年三月まで北高にお世話になりました。その後、函館・標津・札幌・豊富・美瑛へと異動し、最後は札幌の高校で定年退職を迎えました。定年後は悠々自適の生活を思い描いていましたが、現実とは異なるものでした。現在は、旭川駅前にある通信制高校の職員として、新たな経験をさせていただいております。

専門である音楽の方は暫くご無沙汰しておりましたが、旭川市少年少女オーケストラのボランティアスタッフとして今年から関わらせていただくこととなり、幼児から中学生までの子供たちと楽しい時間を過ごしています。

また、新たな取り組みとしては、五十五歳から始めたマラソンにすっかりハマってしまいました。今年で7年目になりますが、北海道マラソンや東京マラソンなどの国内主要大会にも参加し、ベストタイムを更新中です。ちな

みに、今年はホノルルマラソンにも挑戦することとなりました。おかげさまで充実した人生を歩んでおります。
同窓生の皆様も益々ご健勝で活躍されますよう心からお祈り申し上げます。





Former teacher

時を越え、今思うこと

清水 民雄

今年私の干支の戌年です。最後の勤務校の北高を退職して一度一まわりして72歳になりました。

奥の細道の序文の『月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也』のように随分永いこと人生を歩んできたようです。

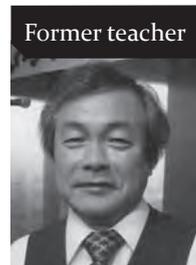
その人生の大半が教職で、今は廃校になった下川の一ノ橋中学を振り出しに手塩高校、富良野工業（現富良野緑峰）、北高、時間講師で勤めた公立・私立を合わせると十校を超えています。山間地あり、海辺あり、鄙びた街、賑やかな市街地、男子校、女子校と多種多様な学校ばかりでどれも思い出深い場所です。

自分自身の生徒の期間も含めると50年をはるかに超える学校の生活です。就寝中に見る夢も学校の夢ばかりです。夢ですから年代の脈絡もなくいろいろな学校が混じりあっています。

生徒の立場では、試験が全く出来ない・運動会でビリ・廊下に立たされた等、教師の立場では、生徒の質問に答えられない・生徒に反抗された・授業に遅れた穴をあげたり・見学旅行中、行方不明の生徒を捜し歩いているなど自分でも忘れていた過去の失敗が甦ってくるのです。

やっと仕事から解放されストレスのない日々を送っているのに夢で苛まれるのは、現職の頃の仕事に悔いが残っているからだと思います。今思うとつくづく未熟な教師だったなと突り無い反省をしています。

北高は一番長く、全日・定時制合わせて20年勤務しました。誠実な生徒が多く、目的意識を持って学んでおり、私も年齢を重ねて少しは自信を持った指導が出来たので居心地良く勤めることができました。見る夢も正直で楽しいことが多いです。



Former teacher

在職した20年のあれこれ

佐々木 和生

これからの余生は、生老病死の四苦と上手に付き合いつつながら勤務した学校の発展と教え子のみなさん

の活躍を楽しみに過ごしていきたいと思えます。

平成元年（以降年号平成を略する）4月から定年退職する20年3月までの在職20年の間、卒業担任4回（3年、7年、11年、14年の各年度）を含む担任を12年、また5年頃から喘息に苦しみ、17年脊椎靱帯骨化症（難病）と診断されるなどもありましたが、それ以外で関わったことなど主なことを書きます。

- ① 元年7月アーチェリー部女子高体連全国大会団体優勝。
- ② 2年1月全道スキー大会（ジャンプ競技当番校旭北）開催、電算係を担当、当時東海大四高2年だった葛西選手のすごさを目の当たりにする。
- ③ 2年8月道教育相談研旭川大会（当番校聖園中）開催、公開授業をする。（元年1月上川高相研発足）
- ④ 2年

- 10月創立50周年、12年10月創立60周年記念式典挙行。
- ⑤ 2年10月校訓「自立・創造・向上」制定。
- ⑥ 道算数数学教育研旭川大会2年9月（当番校旭西、公開授業をする）、9年9月（当番校凌雲、高校部会事務局次長・実践研究を公表する）、16年10月（当番校旭北、高校部会事務局長・公開授業をする）開催。
- ⑦ 普通科3年、8年、16年の各4月1問口ずつ減、英語科13年4月1問口減、18年4月募集停止、進学視型単位制高校（普通科6問口）に転換、国公立大学合格者数大幅増など進学実績に大きな変化を生む。
- ⑧ 4年9月から第2土曜休業スタート（試行的に11月と2月第4土曜休業）、5年度から隔週5日制、14年度から完全5日制、11年度から2期制

実施。⑨6年6月研究紀要第8号発行、実践研究を掲載、以後発行されず。⑩8年度から英語科海外語学研修開始。⑪10年度国公立大現役合格者数3桁(801名)、19年度京都大(工学部)合格(現役)、いずれも初。⑫11年度から学校祭前夜祭で1学年YOSAKOI公演。⑬12年8月道高P連第50回記念旭川大会(主会場旭川市民会館)、14年8月全国高P連北海道大会(主会場旭川市大雪アリーナ)開催、いずれも全体会係を担当。⑭久保倉里美さん(12年度卒)北京(陸上)、寺田桜子さん(15年度卒)トリノ(カーリング)オリンピック出場。⑮見学旅行片道利用だった飛行機13年度から往復利用、2団実施だったのを15年度から1団実施。⑯宿泊研修9月実施を13年度5月、14年度から4月実施。⑰14年度から10月OPEN DAY開始。⑱15年度1学年から朝読書開始。⑲放送局15年度、16年度テレビドキュメント部門全国優勝。⑳16年8月野球部44年ぶり甲子園出場。㉑19年8月全国算数数学研高知大会参加、実践研究を発表する。㉒20年2月英語科閉科式典挙行。㉓20年8月(15年度

から顧問となる)書道部松浦友香さん(3年)全国総文祭(群馬)出場(特別賞)。

まだまだ注目すべきでき事があつたと思われるが調べきれず。

需品も見られなくなりました。パソコンの出現で綺麗な印刷の簡便化が実現され、隔世の感で複雑な心境です。

Former teacher



雑感………思いつくままに

吉崎 浩

旭川北高等学校同窓会が盛大に開催されること、心よりお慶び申し上げます。

早いもので北高を退職して18年が経ちました。年月の経過と共に思い出も遠のいていた頃、原稿の依頼を受け戸惑いながら、思いつくままに振り返ってみました。

昭和56年に赴任。当時は1学年普通科8、英語科2学級の大規模校で、前任校とは全く異なり教育内容も進学指導へと大きく変わり、教科指導や学級活動等、全ての教育活動に緊張を持続しながら過ごしていました。

教科は社会で「政経」・「倫理」・「地理」を担当。1年次は同一科目を履修、2年次以降、社会科目は選択制で、授業は科目別

に展開され学級の生徒も分散状態となりました。担任として学級授業がなく、朝・帰りのホームルームで出欠・連絡確認のみで、生徒の掌握や学級活動に歯痒さを感じていました。この不安も時の経過と共に賢い生徒達の協調性に助けられ、融和で活気のある学級であつた印象が残っています。改めてアルバムを眺め、楽しく躍動している学校生活の姿を再確認し懐かしく見入っています。この歳になると顔と名前の記憶は、相当あやしくなっています。当日、再会して失礼のある事をお許しください。

私の教員時代のほとんどがガリ版の時代で、教材作りや家庭への連絡等も、苦勞と時間を使って作成したものでした。今はこの必

現在、陸上競技の審判の手伝いと家庭菜園での収穫を楽しみに穏やかに余生を送っています。42期生皆さんのご健康とご活躍を祈ります。

授業では板書事項が多い、文字が小さい、きちんと書いて欲しい等、指摘を受けた事も覚えていいます。文字はその人を表すとも言います。教え子との賀状のやりとりで「文字を懐かしく読みました」との返事に、活字より手書きに勝るものなしと自己満足しています。平成12年、教員生活38年の丁度半分に当たる19年間、我が母校(8期生)で楽しく無事に退職出来た事、誇りと嬉しさで一杯でした。良き先輩、同僚の教職員と良き生徒の集う北高で、鍛え育てて頂いたと心から感謝しています。

退職後、溪流釣り、パークゴルフ、団体・地域の奉仕活動等、欲張り過ぎて、体調を崩し入院。健康管理の自己責任を痛感させられました。

現在、陸上競技の審判の手伝いと家庭菜園での収穫を楽しみに穏やかに余生を送っています。42期生皆さんのご健康とご活躍を祈ります。

故大原 克之 先生

5月末頃、北高同窓会実行委員会 会誌担当として、私達42期生の恩師からご執筆を頂こうと思ひ、連絡先の分かる恩師の皆様にご連絡をいたしました。その際に、大原克之先生が数週間前に亡くなられたことを知りました。

ここに大原先生のご冥福を心からお祈り致しますとともに、奥様である大原槇子様のご挨拶状をご紹介します。

三年前（二〇一五年）の一月三十日、午前九時頃、夫克之は心筋梗塞で倒れ、救急搬送され、日赤でステント手術で一命をとりとめました。低酸素脳症という重い後遺症になりました。その時、娘がインターネットで知った『白雪姫プロジェクト』の情報を手がかりに、克之の機能回復をめざしてきました。

克之は沼田高校から弘前大学に進み、そこで地元の演劇界の人々と交流。卒業後、旭川東高校（定時制）の国語教師として赴任、演劇部顧問になりました。昼は働き、夜に学ぶ生徒たちを両生類に例えた脚本『カエルたち』をはじめ『裏庭のメロデー』『ピューティフル・サンデー』『トーチカの五人』と、夏休み返上で書き、昭和五十四年（一九七九年）の『北都荘グッドバイ』は、全道大会

出場のとき、日本放送作家協会の創作脚本賞を受賞。次の東川高校の時は、昭和六十二年（一九八七年）の『チロヌップ』で、忠別川上流に住むキタキツネが開発のはざままでジタバタする様を、ミュージカル仕立てで表し、『サントワマミー』の替え歌も出てきました。旭川北高校でも演劇部の生徒と共におりました。女子生徒に牛の役もさせ、楽しい牛ダンスを見せながら厳しくも異色の斉藤品さんの戦後開拓を扱った『牛が拓く』。そして、『シアター・パパ』で高齢者施設での生活を描き、『綱

を引く』は、綱引きの奥深さを著し、二度目の脚本賞。脚本集に掲載された芝居は五年、十年たった現在でも九州の大谷短大や東京の鶴ヶ丘高校の学生によって上演され、鶴ヶ丘高校が上演したときのDVDは病床の克之の耳元で聴かせました。

『演劇命』の克之は、昭和四十六年（一九七一年）の旭川労演（現在の旭川市民劇場）創立にも関わりました。東京でしか観られなかった芝居を旭川に巡演してもらい四十七年で三〇〇回以上の上演となっていました。

退職後はジャズにはまり、病院のベッド上や車椅子での生活になった。この三年三ヶ月余り、私は続けて定期刊行のジャズCD付マガジンを克之の病室でかけ続けました。誰の演奏か聴き分けられることに「もっと回復できるー」と期待し希望を持ってきました。時々息子がセレクトした曲が入ったCDと、娘が持つてきた映画音楽、そして中島みゆきを聴きながら、手足の爪もみ、ツボ押しや首のマッサージ、手足の屈伸や上下運動などをCDに合わせてするところもありました。リハビリの先生方には、毎回座位と立位をお願いし、訓練しました。身体は拘縮が進まず、私はもっと回復できると信じておりました。

口から食べられるようになることを目標に、去年六月からは嚥下訓練も続けてきました。大好きなコーヒー、スマトラ・マンデリンや練乳やポツカレモンなどを舌の上ののせて味わうこともしてきました。克之の『人間の尊厳をとり戻す』ために自力で出来ることを少しでも増やそうと接し、克之は応えてくれました。

大雪に悩まされたこの冬を越し、「桜が咲いたよ」と話しかけていました。ところが五月一日、今までと異なるようすがあり、二日、三日と心配して過ごし、三日の午後には少し楽そうだったので、いつものように喉まわりの手当てをし、午後七時半に「また明日、来るからね」と言って病室を出ました。四日午前三時一五分、携帯電話に容態急変の知らせがあり、病院に駆けつけました。間に合いませんでした。夫は一人で旅立ってしまいました。

克之は、中島みゆきの『地上の星』のような人です。自らを宣伝せず裏方に徹するところがありました。歯に衣着せず物を言う分、責任感が強く、やさしい人でした。私たちは共働きであったため、元祖イクメンでした。

五月七日、親族に送られる克之は、とても安らかな表情でした。故人が宇宙の微塵となったあとも、どうぞ偲んでくださいますように。

平成三十年五月十七日

大原 槇 子



昭和16年校舍落成



北高 今昔



記者の目



阿部 弘賢
長崎支局

■二重被爆者・山口彌さんの死

「二重被爆者」が亡くなる直前に山口彌さん、長崎市の長崎原爆資料館を訪れた。山口彌さんは、1945年8月9日の原子爆弾投下で、長崎市の長崎原爆資料館を訪れた。山口彌さんは、1945年8月9日の原子爆弾投下で、長崎市の長崎原爆資料館を訪れた。山口彌さんは、1945年8月9日の原子爆弾投下で、長崎市の長崎原爆資料館を訪れた。

非核の思い、受け止めよう

「非核の思い、受け止めよう」

八重瀬島での被爆者たち。その多くは、44年の季節「長崎原爆」を思い出した。原爆投下から75年。長崎原爆資料館で「長崎原爆」を思い出した。原爆投下から75年。長崎原爆資料館で「長崎原爆」を思い出した。



長崎原爆資料館（西）



15歳から続く旅

毎日新聞社記者

阿部 弘賢 第42期

あべ ひろ たか

高校時代は山岳部に所属し、大雪山系や十勝連峰を歩き回った。夏は友人と自転車道内を半周し、冬は85キロのスキーマラソン大会に出たりもした。

今回、同窓会誌への寄稿の話をもらい、これまでの44年間の道のりを振り返ってみると、自分を突き動かしてきたものは「旅」だったのかもしれないと気づかされた。

大学・大学院時代も、当時、住んでいた金沢市から旭川までの約1100キロを自転車で帰省したり、1年間休学してアジアやヨーロッパ、中東など約40カ国を一人で旅したり。そして28歳の時、インドネシアへ渡り、ジャカルタにある邦字紙で新聞記者としてのスタートを切った。

言い換えれば、行ったことのない場所へ行き、いろんな人と出会い、知らなかったことを学ぶ。そのワ

「15歳の春」は、私にとって忘れられない季節だ。それは、ある意味で新聞記者という現在の仕事にもつながる、自分の原点だからだ。

北高の合格発表の後、新入生が初めて高校に行つて教科書などを受け取る「仮入学」があった日、私は石川県にいた。約3週間かけて一人でフェリーと電車で本州を巡っている途上だったのだが、その旅でいろいろな人と出会い、見て回った体験が、今にして思えば、その後の風来な人生を決めたように思う。



長崎市長銃撃事件の現場 (2007年4月)



ジャカルタ中心部の年越しの様子（2003年12月）



スマトラ島沖地震、津波の被災地（2005年1月）



インドネシア独立記念日のお祭り
（2006年8月）



断食月のお祈りをするイスラム教徒
（2002年11月）

られていない物事（事実）を確かめて、読者に知らせるのが役割だ。それを楽しみと感じる「好奇心」、あるいは「ヤジ馬根性」のようなものがなければ、長くは続けられなかっただろう。

2002年から4年間いたインドネシアでは、スマトラ島沖地震・津波やバリ島テロ事件、北朝鮮による拉致被害者の帰国（曾我ひとみさんとジェンキンスさん夫妻の再会）などを取材した。日本に帰って毎日新聞社に入ってから、長崎市長銃撃事件や東日本大震災、原爆・平和報道などに携わった。

18歳で旭川を離れてから、気づけば30年近くがたつが、心の中には今も大雪の山々や石狩の雄大な流れがあるし、友人たちとの楽しい思い出がある。仕事に行き詰まった時は、古里や昔の旅のことを思い出し、自分の中のワクワク感の在りかを確かめている。

クワク感が好きだったのだ。それは、まさに記者という仕事にも通じている。事にしろ、政治にしろ、経済にしろ、記者はどこへでも行き、人と会って話を聞き、まだ知られていない物事（事実）を確かめて、読者に知らせるのが役割だ。それを楽しみと感じる「好奇心」、あるいは「ヤジ馬根性」のようなものがなければ、長くは続けられなかっただろう。

ドネシアでは、スマトラ島沖地震・津波やバリ島テロ事件、北朝鮮による拉致被害者の帰国（曾我ひとみさんとジェンキンスさん夫妻の再会）などを取材した。日本に帰って毎日新聞社に入ってから、長崎市長銃撃事件や東日本大震災、原爆・平和報道などに携わった。

18歳で旭川を離れてから、気づけば30年近くがたつが、心の中には今も大雪の山々や石狩の雄大な流れがあるし、友人たちとの楽しい思い出がある。仕事に行き詰まった時は、古里や昔の旅のことを思い出し、自分の中のワクワク感の在りかを確かめている。



■プロフィール

- 1992年 旭川北高普通科卒業
- 1999年 金沢大大学院修了
- 2002年 インドネシアの邦字紙の記者に
- 2007年 毎日新聞の記者に。長崎支局や大阪社会部などを経て、現在、和歌山支局勤務



吹奏楽からカーデザイン

日産自動車 デザイナー

大越

おお
こし

巨之

なお
ゆき

第42期



■プロフィール

1974 旭川生まれ
1992 旭川北高普通科 卒業
1997 筑波大学 芸術専門学群デザインコース 卒業
1997 日産自動車デザイン本部
“アメニオコンセプト”、“INFINITI QX60”、“INFINITI Q30” など
コンセプトカー、アドバンスド、市販車などの外装デザインをおこなう。
現44歳

寄稿の依頼をいただきました。たくさんのお同窓生のみなさまを代表して、私が寄稿させていただけるなんて大変光栄であり、また自分なんかでよかったのか・・・と思いつつ。とはいっても、年齢を重ねるごとに記憶が曖昧になることを実感する頃なので書けるうちに書いてしまおうと思った次第であります！

1989年、人口分布図のピークであった団塊ジュニアの私も、内申点やら何やらで、無事高校入試を突破しまして、たくさんのお同級生とともに北高に入学させていただきました。私の人生で記念すべき年であります。そしてまた、

1989年は自動車業界的に「日本車のピンチ・イヤーズ」と呼ばれる年でした。トヨタは「セルシオ（現レクサスLS）」を発表し、その静粛性でメルセデスやBMWのエンジンアタチを戦慄させました。マツダは「ロードスター」をライトウェイトスポーツカテゴリーに復活させ、ボクスターやZ3、TTなどのフォロワーを出現させました。日産は「Z32型フェアレディー」でアウディに先じてアーチ型キャビンデザインを市販車で実現しました。R32型スカイラインGT-Rは、その高い走行性能から世界の自動車メーカーが驚いたと言われています。他



Ohkoshi 2013

にも、180SX、
や、CR-X、
MR2、ランクル80などなどキラキラとしたクルマたちが日本に現れました。1989年は、自動車業界にとって記念すべき年でした。

日本車のビンテージ・イヤーに高校生になった私は、現在、カーデザインを仕事にしています。自動車のデザインは一般的に、大きく3つに分けることができます。エクステリアデザイン、インテリアデザイン、カラーデザインです。最近ではUXデザインも追加されつつあります。細分化していくともっと細かく分けることができますが、私は、外観の係、つまりエクステリアデザインを主な職域としています。一台のクルマのデザイン開発には、たくさんの係がそれぞれかわり合い、協業のもとデザイン開発を行っています。そ

して一台のクルマの開発には、デザインだけでなく、開発、生産、購買、マーケティング、などなど様々な部門が関わっています。およそ3万点の部品から成り立つと言われているクルマは、多くの協業で出来上がっているのです。

カーデザインに関わって20年。最近よく思うのが、いろいろな要素をうまくバランス取りすることがカーデザインの肝なんじゃないかということです。こんなクルマを作ろう！といったコンセプトに基づき、様々なアイデアをスケッチし、モデル作成し、製品として成立するためのハードポイントを守りながら魅力的なデザインを実現する作業はバランス取りの連続です。コンセプトに沿ったメインターマを強調するためサブテームのダイナミクスをコントロールするバランス取り・・・そして協業。

デザインする時に、よく思い出するのが高校入学と同時に始めた吹奏楽なのです。吹奏楽部には、ト

ランペットやトロンボーン、クラリネットやサクソフォン、パーカッションなど・・・それぞれ特徴を持ったいろいろなパートがありました。そんななかで私は、音も形もカッコイイ楽器がやりたいと思います、トランペットを選びました。毎日練習して音が出せるようになると合奏に参加します。合奏は全パートの協業でいろいろな曲を指揮者のもと演奏をします。

周りの音を聞いて最適な音をだすこと。この感覚は、カーデザインそのものだったと思う今日この頃なのです。





『流れのままに』

レイアロハフラスタジオ旭川
インストラクター

小林 亜士 第42期
こばやし あど

私は今現在、フラの講師を生業としています。諸先輩方のような華々しい経歴や自慢出来るような業績は何一つありませんが、ここに至る経緯を少しお話ししたいと思います。まず私の高校以降の経歴をざっくり申し上げますと、北高↓専門学校↓公務員↓住宅メーカー↓現在に至る・・・となり、少し変わってる、と思われるかもしれませんが私が私にとってはごく自然な流れだったのです。

姉二人に第一人の四人姉弟で育った私は、「姉より上の学校へ行く」と「セーラー服が着たい」というこの二点で北高を志望しました。特に目立つ事もなく平凡なそれなりに楽しい高校生活を送りました。目標と言えるものも持っていませんでしたが、早く自立をしたくて、いつしか抱くようになった「家」への憧れを胸に建築専門学校へ進学しました。

二年間建築を勉強し、卒業する頃にはバブル崩壊の波が北海道へも到達し求人は激減。そんなある

日、先生から呼び出され「小林さんなら受かると思う」と勧められた防衛庁(当時)職員採用試験。防衛施設局で活躍する女性先輩の話も聞き、小指の先程も考えていなかった公務員になったのです。

配属されたのは陸上自衛隊の営繕班で、当初女性技官はまだ珍しかった事もあり、周囲の皆さんには大変良くしていただきました。同じ事務室内に採用時の人事係の方が転動して来られ「二種試験を受けてみたら」と勧められました。二級建築士の受験も控えていましたが給料が上がる事に釣られて受験し、どちらも無事合格する事が出来ました。

防衛庁に入庁して丸五年を迎えようとした時に家づくりに携わりたい思いが再燃し、就職の目処もつけないままに退職しました。そして就職情報誌で、かつて専門学校の課題で私が一目惚れし図面におこした住宅メーカーの募集を目にしたのです。初めて運命らしきものを感じすぐさま応募しました。



例の如くちょっとした流れに乗ってしまい、設計ではなく営業として採用されるのですが。

住宅メーカー勤務中の2003年、私は人生最悪の辛い出来事に直面し疲弊しきっていました。悲しみの淵に立ち独り思い悩む日々を日一日と乗り越え、少しずつ元気を取り戻し始めた翌年、気分転換の為に通い始めたジムでフラと出会ったのです。意外と難しくハードなステップ、手話のように意味を持った手の動きで詞や感情を



表現する・・・面白みを感じました。先生に誘われジムプログラムだけでなく教室にも通い、初めての発表会後には主宰の先生から声を掛けられ幾つかの教室に通い、誘われるまま多くのイベントにも出演しました。始めてから二年が経過する頃に、先生から手伝って欲しいという想いを告げられ、助けになるならとアシスタントを始めました。フラの優美な動きの追

及・再現、感情表現が苦手な私が踊りの中では感情を解き放て、そんな私の踊りに感動して下さる方々がいるなんて・・・。そして何より踊っている間は辛い事も悲しい事も、余計な物事全てを思い出さずに居られました。そして私は心身共に健康を取り戻せたのです。十一年間勤めた会社を理由あつて退職した後少し寄り道もしましたが、切っ掛けをくれた先生と私を見出してくれた先生、そして自分を取り戻させてくれたフラに恩返しをするつもりでこの道を選んだのです。結局はまた自分が助けられている事は言うまでもありませんが。

こうして振り返ってみると、多くの助言によって自分の知らない新たな道を発見し、ここに辿り着いたのだと実感します。そのフラを通じて良い仲間にも恵まれ、沢山の方々と出会う事が出来ました。そして今回このような機会をいただけただ事に、心から感謝申し上げます。

アトラクション Attractions

レイアロハフラスタジオ旭川



ハワイの伝統舞踊「フラ」に魅せられ、そしてハワイの心「アロハスピリッツ」に感銘し、2000年7月にスタジオを設立し、18周年を迎える事ができました。ハワイの尊い教えであるアロハスピリッツ、「親切」「喜び」「調和」「謙虚」「忍耐」この5つの心をモットーとし、フラをお伝えできる事に喜びを感じています。

現在道北エリアを中心に全道30地域に教室を開き、フラの輪を広げ、その地域での祭典やイベント・ボランティア等に数多く参加させていただき、地域の人々と交流し大変喜ばれているところです。

私が思うフラの魅力は、型にとらわれず大らかな心で楽しく踊り、心癒され、それが踊り手に反映され、観る人々にも喜びが伝播していく事です。まるでレイのように一人ひとりが連なって、幸福の輪が広がるように感じています。そのフラが、毎日家事や仕事で忙しい女性達が何もかも一時忘れて没頭し、足腰を鍛えつつ明日への活力・心の支えとなる大きなエネルギー源となって欲しいと考えています。そして女性達が心豊かで、平穏で明るい笑顔で日々を送る事により、家庭や会社さらには社会へも喜びの輪が広がります事を願っています。

益々高齢化が進む社会ですが、いつまでも若く健康でいられますよう、有酸素運動で無理なく全身を動かすフラを愛し、踊る事に喜びを感じながら、伝え続けていく事が私の使命とし、精進して参りたいと思います。



レイアロハフラスタジオ旭川
代表 水田 カリコ よし子





卒業から50年、 新たな校風の 礎となれたのか

北海道旭川北高等学校同窓会19期幹事長
植村 俊幸

第53回旭川北高同窓会の開催
おめでとうございます。そして
当番期42期の皆さん、45歳とい
う社会の中核を担い、公私とも
に忙しい中、本当にご苦勞様で
す。

私達19期の当番期は、23年前
の第30回の同窓会で、創立50周
年記念という節目の開催でした。
どうなるのかと思いつながら、
日頃音沙汰の薄い同期の奮闘と、
諸先輩の支援もあって無事終え
ることができました。

卒業してから50年、入学は昭
和41年です。北海道立高等学校
における学区制（正確には通学
区域制度）の一大変革（？）の
あった年です。戦後、昭和25年
から始まる小学区制という、住
んでいる地区によって進学する
普通高校（北、東、西）が決ま
っていたのですが、昭和41年か
ら大学区制になりました。

「どこの高校に行ってもいい
ですよ。」と突然言われた中学
生が、何を基準に選択すればいい

いのでしょうか。行きたい高校と
はどういう高校なのでしょう。

新制高校の小学区制から16年
間経過し、地域性による個性が
生じてきたかもしれないが、こ
れが志望動機になるとは思えま
せん。選択の動機は様々ですが、
親の意向か、本人の意識高い
系？はたまた戦前の郷愁か。

私は学区制の変更をトヤカク
言っていますが、そういう私も
小学区制の郷愁なのではと言わ
れかねませんが……。

大学区制の弊害ははっきりし
ています。高校間格差と細分化
された序列化です。学力ばかり
強調するつもりはないのですが、
似た学力の生徒で構成される高
校になります。それが校風とな
って伝統となるのです。

生徒の思いと教師の関わり方
から校風が創られていきます。
大学区制になって初めての北高
校生であった私たちは果たして、
今日の北高の校風の良き礎とな
ったのでしょうか。



同窓生から



北高51期
児玉梨奈

北高に入ったきっかけは、中学時代にひたすら英語・英語・英語であり、英語の弁論大会で指導を受けた先生が英語科であったため、当時の私は他校に目もくれず推薦入学で入りました。

入学してまもなくの宿泊研修で、会って3日と経たないクラスメイトと富良野岳の頂上に登り、下山するや否や宿泊先の体育館で運動会をするという鬼畜な内容にどんな高校なんだこは…と思いつつも、「綱奪い」という競技ではいかに戦わずして取るか夢中になり綱はあっさり奪えましたが、引き換えにジャージの膝をあっさり破り風通りの良い三年間を過ごすことになりました。

実をいうと英語が目的だったのではなくやはり根底に音楽をやりたいだったので。世界で最も使われている言語が話せることにより様々な考えや想いを知り、音楽に活かしたい、海外の人たちと一緒に作品をつくりたいという想いがありました。口に出して言えませんでした。海外研修ではアメリカ西海岸でホー

ムステイをし、その時はまだまだ消極的でもっとあれこれ言えばよかったと思います。帰り際の飲食も受け付けないほど体調をくずした私に「炭酸飲料の7UPがいいから!」と与え続けてくれたファミリーには至極疑問をいだきました。愛を感じました。

振り返り「もっとできた…」と思えばど当時はそれが精いっぱいでした。時にしかできないこと。高校3年間本音は辛かったことの方が多いですがそれはシンガーソングライターになった私を大きく支えています。

2017年4月より自衛隊旭川地方協力本部・広報大使にも就任させていただきました。ただ在学中は一度も行ったことのない駐屯地に何度となく行き皆さんと一緒に活動しています。今後は野球に携わる事項にも取り組むこともありスタルヒン球場と駐屯地が目の前である高校の卒業生として感慨深いものがあります。

今に向かいその時から何かの繋がりがあったのかもしれませんが。

北海道命名150年である今年に北海道出身シンガーソングライターとして初である北海道観光大使に就任し、こうして母校へ報告をする機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。

北高卒業生であることを誇りに、同じ母校である皆さんと、これまでと日々支えてくれる皆さんに感謝し、どんなことも共に歩む未来に繋がるように唄い続けます。

アトラクション Attractions

児玉梨奈(Rina Kodama、コダマ リナ)

北海道旭川市出身のシンガーソングライター

自衛隊旭川地方協力本部広報大使

北海道観光大使

映画「生きとし生けるもの」広報大使

バンド経験を持つ父親の影響を受けて、物心つく前から和洋のさまざまな音楽に触れて育つ。初めて好きになったアーティストは、マイケル・ジャクソン。

あるときは屈託のない少年のような、またあるときは豊かな母性を連想させる独特の声質と広い音域を活かしながら、愛おしい「永遠の一瞬」を詩の中に表現し、ひたむきに唄い上げている。またその世界観を彩るサウンドは、どこか懐かしい民謡調からバラード、ロック、ポップ、アニメソングまでと果敢に多彩なジャンルに挑戦しており「転石苔を生じず」を地でいくフレッシュな表現者であり続けている。

音楽を軸に変幻自在な表現を続け、音楽以外のアートをからめた作品としてこれまでに全7作のCDをリリース。

You Tubeにて映像作品【うさぎ】【涙のち晴れ】【花時(ハナドキ)CMバージョン】【北海道150年】公開中。

映画「生きとし生けるもの」にオリジナル曲「ISLAND」を提供。同曲はAIR DO機内放送の映像にも使用された。

北海道命名150年PR動画の楽曲「北海道150年」ではギターとボーカルを担当。

ライブ、ラジオ・メディア出演、札幌国際短編映画祭でオリジナル曲の映像作品を上映、CD「花時」デザインの11トントラックが走行、JAあさひかわイメージキャラクターテーマソングや母校の合唱曲、CMソングを制作など幅広い活動を経て、2017年4月より「自衛隊旭川地方協力本部 広報大使」に就任。

2018年北海道命名150年の年に北海道観光大使に就任。

【youtube】
うさぎ 涙のち晴れ
花時CM 花時プロモーショントラック

【CD ~ Now on sale ~】
【花時】 ¥1,000-(tax in)
【Surround】 ¥1800-(tax in)
【生きとし生けるもの】 ¥1,000-(tax in)

【HP】児玉梨奈の気儘あそばせ(ブログ) /
【Facebook】【twitter】【Instaglam】



進路指導部 (全日制) 高井 隆行

【国公立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H25	H26	H27	H28	H29
北海道大	12	17	3	7	11
北海道教育大	24	30	26	30	21
室蘭工業大	3	7	11	6	14
北見工業大	4	4	4	1	5
小樽商科大	8	5	4	6	4
帯広畜産大		1	1	3	1
旭川医科大	2	5	4	10	7
弘前大	6	8	8	8	6
岩手大	3	6	6	1	4
東北大	2	1	2	1	1
秋田大	1		1	1	1
山形大		6	3	1	6
茨城大			2	2	1
筑波大	1	1		1	1
宇都宮大			1	2	2
埼玉大		2		2	2
千葉大	1			1	1
都馬大	1		1		
電気通信大					
東京学芸大					
東京工業大	2				
東京外語大		1			
東京農工大	1	1			2
横浜国立大	1		2		2
新潟大	12	7	4	7	3
岐阜大			1		
金沢大		3	3	2	1
信州大		3		2	2
静岡大		3	1	3	1
名古屋大		1	1	1	1
京都大	1	1	1	1	1
京都工芸繊維大	1				
大阪大				1	
神戸大			2	1	
広島大		1			
長崎大			1	1	
琉球大	1		1		
札幌医科大学	1	1	3	3	1
公立ほくたいて未来大	3	2	1	1	
釧路公立大	7	2	2	2	6
札幌公立大	2	1	2	6	3
名寄市立大		5	3	7	6
高崎経済大	3	2			1
千葉県立保健医療大			1		
首都大東京			1	2	2
横浜国立大		2			1
都留文科大	1				
神戸市外国語大	1				
その他	8	13	2	9	11
国公立大計	113	141	109	131	132

*旭医大医学科 H23(1)、H24(3)、H26(2)、H27(1)、H28(2)、H29(1)

【私立大学合格者数】(現役+過年度)

大学名	H25	H26	H27	H28	H29
藤女子大	15	5	12	6	14
北星学園大	18	12	15	15	15
北海学園大	21	44	29	30	38
天使大	3	3	5	4	2
北海道科学大	19	21	24	8	37
酪農学園大	4	4	4	6	4
北海道医療大	12	15	13	12	9
日赤北海道看護大	1	5	6	6	4
北海道文教大	13	6	11	7	4
獨協大	1		1	2	7
青山学院大	1	5	4	2	3
学習院大	1		1	1	1
慶應義塾大	1				
東京女子大		1	1		
駒澤大	3	1	3		
上智大				1	
専修大	2		1	4	5
創価大	6	1	2	2	4
中央大	8	8	5	14	6
津田塾大					2
東海大	3	3	3	1	5
東京農業大	3	2	7	3	1
東京理科大	3	3	3	2	4
東洋大	3	5	3	7	5
日本大	2	5	2	2	5
法政大	5	9	9	8	11
明治大	2	7	6	3	2
明治学院大		3	2	1	4
立教大	2	3	6	1	2
早稲田大	3	1	3	1	2
神奈川大	3	2	3	2	2
京都外大			1	1	1
同志社大	1	1	1	5	1
立命館大	3	6	1	2	2
関西大		1			
近畿大	1		1	2	3
関西学院大	3	2	3		
その他	46	81	80	75	84
私立大合計	217	249	253	234	283

【公務員・民間就職 合格者数】(現役)

種類	H25	H26	H27	H28	H29
国家公務員		1	2	1	2
道職	1		2	1	2
市町村職員	3		4	1	1
他の公務員	1	1	1	1	4
民間就職	1				1

平成二十九年年度の卒業生は、単位制導入後、10回目の卒業生になりました。単位制の進路指導では、一年次より、将来を見据えて、大学で何を学びたいのかを具体的に考えさせることから始まります。また、道内外の大学による説明会や出張講義などの実施、またオープンキャンパス等への積極的な参加の奨励などが特徴としてあげられます。また、若手の同窓生が中心となり、自分の職業について生徒に語る「先輩図鑑」という企画も昨年度で6回を数え、参加した後輩達に好評です。このように早期より本物に触れさせることにより、自分が将来、どのような職業を目指し、そのためにどの大学を目指すのかという目標を、できるだけ明確に持つよう進めています。

この年次は、一年次のときから、鈴木隆一郎年次主任を中心に、学習指導、進路指導に積極的に取り組んできました。自分の進みたい進路目標に向かって一つひとつの積み重ねを大切に組み組んだ学年です。生徒の学習へのモチベーション維持に努め、日々の学習記録であるPDC Aシートの活用、教科ごとの模試分析や生徒一人ひとりの進路検討会や個人面談を重ね、細かな指導を継続的に実施してきました。今年の一年次から、新たに「大学入学共通テスト」が導入されることが発表されております。今春の大学入試センター試験では一部で対話形式の問題が増えるなど、傾向を感じさせる出題が見られましたが、難易度に大きな変化はありませんでした。北海道大学は近年、道外人気が高く、その影響を本校も受けてきましたが、今春は現役7名、過卒4名、合計11名と、久しぶりに合格者が二桁となりました。生徒が、高い目標を持って粘り強く、日々コツコツと努力した結果といえます。

本校の最終的な大学入試の結果は、国立大学の現役合格が前年比6名増の113名となり、この十年間で2番目に多い年となりました。その要因のひとつは、推薦・AO入試を積極的に活用したことです。今年度、本校では国公立の推薦・AO入試に多くの生徒がチャレンジし、20名が合格しました。これは近年で断トツに多い数字です。また、東北大に一名、名古屋大に一名現役合格者を出し、過卒生を含めると、旭川医科大学医学部に4年連続、京都大に5年連続合格と健闘しました。私立大学でも、首都圏の早稲田大を初めとする難関私立大だけでなく、国際基督教大など自分が求める学びがある大学や、自分が挑戦したい研究により高度に取り組める環境のある大学などを積極的に調べ、自分に合った私立大学に進学する者も増加しています。

難関国立大、医学科合格者数 (現役)

大学名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
北大(文系)	8	2	3	3	2	1		1
北大(医理系)	8	12	3	7	11	1	5	6
札幌医大(医)							1	2
旭医大(医)	2		3			1	1	1
東北大	3	3		2		1	1	1
筑波大	1	1			1			1
東京工業大				2				
東京外国語大		1			1			
名古屋大		1						1
京都大				1	1	1		
大阪大		1					1	
神戸大			1			2	1	
計	22	21	10	15	16	7	11	10

平成29年度 進路別人数 卒業生の進路

区分	合計			前年			
	男	女	計				
卒業希望者数	111	126	237	237			
進学希望者数	109	123	232	234			
進学者数	96	115	211	193			
進路	大学	国公立	道内	30	35	65	73
			道外	34	10	44	29
		私立	道内	19	25	44	41
			道外	13	31	44	33
	短大	国公立	道内	0	0	0	0
			道外	0	0	0	0
		私立	道内	0	3	3	4
			道外	0	1	1	0
	大専	専攻学校	道内	0	0	0	0
			道外	0	7	7	8
看護		道内	0	0	0	0	
		道外	0	1	1	4	
その他	道内	0	2	2	1		
	道外	0	0	0	0		
就職	公務員	2	3	5	3		
	民間	0	0	0	0		
自営・家事手伝い	0	0	0	0			
その他(未定を含む)	13	8	21	41			

国公立大学現役合格者数及び1クラスあたりの平均合格者数

卒業年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6
合格者数	98	106	104	91	120	97	107	113
人/クラス	16.3	17.7	17.3	15.2	20.0	16.2	17.8	18.8

18部活動報告

平成29年度の成績（大会の結果等）を中心とした部活動の紹介及び近況報告です。なお、平成30年度は多くの部活動が全道大会に出場しましたが、その成績については、来年の会誌でお伝えします。

●野球部

野球部は、3年生7名、2年生13名、1年生2名、マネージャー3名の計25名で活動しています。

昨年の秋季大会は初戦の上富良野高校に勝利しましたが、2回戦で富良野高校に1-5で敗退しました。大事な場面でのミスが敗戦の大きな要因でした。

そこで冬季練習では個人技術の向上のために雪の上でボールを使って実践的な練習を多く取り入れて活動しましたが、自分たちは技術の前に感謝の気持ちが足りないなど精神的な甘さを痛感させられることがありました。多くの人に支えられているという現実を考え、感謝の気持ちを持ち、他人への配慮ができるようになることなどをチーム全体で話し合い、もう一度原点から活動しようとして再スタートしました。

春季大会で全道大会に出場して大きく弾みをつけたいと思いましたが、初戦の羽幌高校に1-5で敗れました。3年生にとっでは、最後の夏の選手権大会を残すのみになりました。残されたわずかな期間を、1分1秒でも無駄にせずに必死に取り組み、まだまだ伸びる余地は十分にあるはずですが、今年の3年生は、人数も少なく、力もないですが、後輩の力を借りて全員のまとまり

の中で3年生を中心にチームを引っ張って強いチームになるように頑張ります。また、今年の選手権大会は100回記念大会という節目の年になります。目標である甲子園での1勝を達成し、今まで支えてくださったすべてのの方々に感謝の気持ちを伝えます。

●ソフトテニス部

今年度は3年生1名、2年生11名、1年生3名の女子計15名で活動しています。昨年度は新人戦で藤田・多田ペアが地区のベスト8に勝ち上がり、全道大会に進出しました。全道大会では2回戦を突破したところで、降雨のため大会打ち切りとなってしまいました。そして今年度の5月に行われた高体連地区大会。団体戦の予選リーグは旭大高、旭川商業という最大の激戦区を、いずれも2-1と競り勝ち、1位で通過しました。決勝トーナメント1回戦では留萌高に2-0で勝ったものの、準決勝では旭川明成高に0-2で敗れ、3位決定戦へ。勝てば全道のかかった大一番の相手は予選リーグで勝った旭川商業だったのですが、1-2と惜敗してしまいました。一方個人戦では、藤田・多田ペアと小林もも・小林杏実ペアが、ともに代表決定戦を勝ち上がり、全道大会へ進出しました。



6月に北見で行われた高体連全道大会は気温30℃を超える炎天下の中での試合となりました。結果は1-2回戦で敗退となりましたが、それぞれのペアは持ち味を十分に発揮しました。特に、藤田・多田ペアは2回戦で、優勝した道科学大高のペアを相手に、気迫あふれるプレーで互角に打ち合

い、1セットを奪う大健闘でした。一人で部を引っ張ってきた3年生の藤田部長が引退し、新チームへと移行することになりました。秋の新人戦や団体選抜に向け、高い目標を掲げて練習に励んでいきますので、今後とも北高ソフトテニス部への応援、ご支援をよろしく願います。

●硬式テニス部男子部

今年度の男子テニス部は、3年生6名、2年生8名、1年生10名の計24名で活動しています。昨年度、新人戦は団体3位と惜しくも全道進出を逃しましたが、個人シングルスで主将である中谷紫温が優勝するという快挙を成し遂げました。ただ、全道大会が見学旅行の日程と重なっており、残念ながら辞退するということになってしまいました。

そして、高体連。団体戦で2年連続の準優勝となり、全道出場をはたすことができました。個人戦もダブルスで1ペア（中谷・澤渡3位）、シングルスは2名（中谷3位・澤渡5位）が個人戦でも全道出場を果たしました。なかでも澤渡は2年生ですので、今後楽しみです。全道大会では、昨年度の雪辱を果たせるよう1つでも多く勝ち上がりたいと考えています。残り少ない期間を集中して準備し、結果につなげていきたいと思えます。その後新体制となる1・2年生の18名で、先輩方を越えるように熱心に練習しています。テニスを通して自分と向き合うことで、積み重ねることの大切さや周囲の支えを感じながら、部員一丸となってテニスに打ち込ませてもらいたいと思えます。

●硬式テニス部女子部

昨年の全道大会では、シングルスで三位入賞となり念願のインターハイ出場を果たしました。残念ながら一回戦敗退となりましたが、本人は目標を実現でき大変満足し

た様子でした。今年度は五月に行われた高体連旭川支部予選で、団体戦は第三位、個人戦ダブルス五位入賞（全道大会進出）、個人戦シングルス準優勝（全道大会進出）という結果でした。特にシングルスは五年連続北高生による優勝を狙いましたがあと一歩及びませんでした。六月に行われる全道大会では、上位進出を目指し練習に励んでいます。

今年度は新チームに移行となり、現二年生四人に新入部員五人を迎えての活動となります。新入部員は初心者ではありますが、五人とも上達が見込め、今後が楽しみです。新チームでの秋季大会に向け頑張りたいと思っています。

●男子バレーボール部

今年度は、選手・マネージャー合わせて16名で男子バレーボール部はスタートしました。去年の高体連旭川支部予選会で、旭川工業高校に敗れ、全道大会出場を逃し、とても悔しい思いをした時から1年間自分たちが他のチームに劣っている所や弱い部分を話し合い、克服するために日々熱心に練習に取り組んできました。その結果もあつたのか、高体連前のシードを決める大会では、第3シードを獲得することができ、良いスタートを切れました。高体連当日、最初は緊張していたものの、予選を順調に勝ち抜き、最終日の代表決定戦まで進むことがなんとかできました。しかし、メンバーの一人がその前の試合で、怪我をしてしまい万全の状態では代表決定戦に望むことができませんでした。急遽チーム編成を直し、初めてのメンバー構成で挑んだので上手くかみ合わない場面も沢山ありましたが、一人ひとりがそれぞれをカバーし合い、助け合いながら試合を進めていった結果、他の高校も応援してくれたおかげもあり、全道大会の出場権を獲得することができました。絶対に負けられないというプレッシャーの

中、3年生はもちろんですが、1・2年生も本当によく頑張ってくれたと思います。まだ全道大会まで時間はあるので、より良いチームを続けて全道大会に出場できなかつたチームの分も悔いのないように全力で挑んでいきますので、応援よろしくお願ひします。

◆大会結果

◆旭川支部春季大会

1 回戦 旭川北 2-0 旭川永嶺
2 回戦 旭川北 2-0 旭川西
準決勝 旭川北 0-2 旭川工業
3 位決定戦 旭川北 2-0 富良野
◆高体連旭川支部予選会
予選グループ戦
旭川北 2-0 富良野緑峰

決勝トーナメント戦

旭川北 2-0 旭川明成
決勝リーグ
旭川北 0-2 旭川実業
旭川北 0-2 旭川工業
旭川北 2-0 旭川西

※3位入賞 全道大会出場権獲得

◆女子バレーボール部

平成30年度は、3年生7名、2年生10名(うちマネージャー1名)、1年生9名の合計26名という今までにない大所帯で活動がスタートしました。1月に行われた29年度の新人旭川予選ではベスト4に残り、旭商・旭川龍谷に対してフルセットのゲームをする事ができ、大きな自信をもって高体連に臨む事ができました。高体連予選ブロック戦に勝利し、決勝トーナメントに進みました。1回戦の明成高校、2回戦の第4シードの旭川西高戦では、ともに本当に苦しい戦いでしたが、粘り強く戦い抜く事ができ、ついにベスト4に進出することができました。決勝リーグ戦は実業・商業・龍谷との対戦でしたが、勝利には一歩届かず

全道大会出場とはなりませんでしたが、大きな財産となる3戦でした。これからは第4シードを守り、全道大会出場を目標に練習にさらに精進していきたいと思ひます。

◆旭川支部春季大会

1 回戦 旭川北 2(25-19) 25-18 0 旭川明成
2 回戦 旭川北 0(17-25) 21-25 2 旭川商業

◆高体連旭川支部予選

予選ブロック戦
旭川北 2(25-13) 25-15 0 羽幌
決勝トーナメント戦
1 回戦 旭川北 2(25-22) 25-17 0 旭川明成
2 回戦 旭川北 2(18-25) 25-23 25-18 1 旭川西

決勝リーグ戦

旭川北 0(11-25) 15-25 2 旭川実業
旭川北 0(21-25) 22-25 2 旭川商業
旭川北 0(17-25) 8-25 2 旭川龍谷
第4位

◆サッカー部

サッカー部は現在、3年生が引退し、2年生16人、1年生9人、マネージャー3人、顧問の菅井先生、安藤先生の計30人で毎日楽しく全力で活動しています。

昨年リーグ戦で1部昇格を果たし、高体連での全道進出を目指していましたが、初戦は旭川高専に5対1で快勝したものの、つづく旭川東戦は1対3で破れてしまいました。

この結果によって、自分たちの力のなさや努力の足りなさを実感させられました。新体制になり、まずは道北プリンスリーグでの1部残留、そしてその先にある選手権や高体連での全道進出を目指し一日一日を

大切に取り組んでいこうと思ひています。これからも引き続き応援宜しくお願いします。

2017選手権 2回戦敗退
旭川商業 0対3

2017道北プリンスリーグ2部 11勝3敗
プレーオフ進出 プレーオフで旭川東に勝利し、1部昇格
2018高体連 2回戦敗退
旭川東 1対3

◆卓球部

高体連旭川支部大会の結果は、女子団体が3年生のいない中、史上初めて優勝！男子は惜しくも第3位でした。個人戦では女子ダブルスで佐々木・楠組が準優勝、女子シングルスで佐々木が第5位でした。この度男子は、全道大会には出場出来ませんでした。女子は6月19日から名寄で行われる大会でベストを尽くしてきましたと思ひます。

○高体連旭川支部大会予選結果

女子学校対抗予選トーナメント
旭川北 3-1 旭川農業
旭川北 3-0 南富良野
旭川北 3-1 旭川商業
旭川北 3-0 旭川永嶺
女子決勝リーグ
旭川北 3-0 留萌
旭川北 3-1 旭川商業

男子学校対抗予選トーナメント

旭川北 3-2 旭川農業
旭川北 3-0 旭川工専
男子決勝リーグ
旭川北 2-3 留萌
旭川北 1-3 旭川南
旭川北 0-3 旭川実業

◆バドミントン部

バドミントン部は男子28人、女子23人の計51人で活動をしています。男女ともに仲が良く、どんな辛い練習でも協力し、毎日明るく練習に取り組んでいます。

今年も、顧問の先生をはじめ、OBやOG、大学生や実業団選手の方々など多くの方々の応援とご支援をいただき、昨年度は高体連全道大会で女子団体準優勝、個人戦ではシングルスでベスト8に入るといふ結果を残すことができました。また、新人全道大会では女子が団体戦3位に入賞することができました。

今後も、より一層練習に励み、より良い成績を残せるように、そして一番の目標であるインターハイ出場を目指してみんな切磋琢磨して日々努力していきたいと思ひます

【平成29年度主な大会結果】

高体連支部大会および各種全道大会
◇国民体育大会北海道予選
平成29年5月12日～14日
女子複 片淵・笹谷 ベスト8
女子単 小中 3回戦敗退
中村 1回戦敗退
◇高体連旭川支部大会
平成29年5月29日～31日
男子団体 旭川市 ベスト8
女子団体 川等・田口 3回戦敗退
江淵・西山 3回戦敗退
片淵・笹谷 第3位
小中・中村 ベスト8
岡田・志摩 2回戦敗退
川等 ベスト8
江淵 ベスト8
西山 1回戦敗退
小中 準優勝
笹谷 第3位
中村 ベスト8

◇高体連全道大会

平成29年6月13日～16日

滝川市

女子団体

準優勝

女子複

2回戦敗退

女子単

ベスト8

女子単

2回戦敗退

◇北海道高等学校新人大会

平成30年1月11日～14日

深川市

女子団体

第3位

女子複

2回戦敗退

女子単

2回戦敗退

●剣道部

今年、剣道部には残念ながら新入生が入りませんでした。それでも途中入部の生徒2名を加え、現在男子4名、女子5名で活動しています。少ない部員ですが先輩たちが築いてきた伝統を受け継ぎ、「至道優勝」を目標に、「人間形成」を目的に日々練習に励んでいます。凛とした姿で深刺と活躍できる剣道部を目指しています。勉強と部活動は支え合うのではなく、それぞれ強くなる道は同じであるという考えのもと、生徒にはきりかえをしつかりして高校生活を充実させて欲しいと思っています。

今年男子は団体を組むのがやっとですが、久しぶりに女子が5人になり北高剣道部の伝統を守るために必死に頑張っています。その結果、男子は個人で全道大会に出場し、女子は個人で旭川支部を優勝して全道大会に出場することができました。全国大会を目指して練習することはもちろんですが、これからも魅力的な剣道部づくりを目指して頑張っていきたいと思っています。日頃から北高の活動を支えてくださっている方々にこの場を借りてお礼申し上げます。これからもご支援、ご声援のほど、よろしくお願ひします。

H29年度おもな大会結果

・高体連旭川支部大会 男子団体3位

・高体連全道大会

男子個人 堀田久嗣(2年) 出場

女子個人 伊藤朱里(2年) 出場

・高体連旭川支部新人大会

女子団体2位

・高体連全道新人大会

男子個人ベスト8 関 舜至(2年)、堀田 久嗣(2年) 出場

●男子バスケットボール部

今年度は3年生8名、2年生6名、1年生4名とマネージャー3名の21名で活動しています。昨年度は、春季大会で優勝、高体連大会でも優勝し、3年連続の全道大会出場を果たしました。今年度は、シード権を落とし、高体連大会も決勝リーグに進むことが出来ませんでした。人数も少なく、大きな選手もいないという厳しい状況ですが、再び全道大会へ出場できるよう頑張っていきたいと思っています。

◇選手権旭川予選
2回戦 旭川北 132-31 富良野緑峰
準決勝 旭川北 75-96 旭川大学

◇旭川支部秋季大会

1回戦 旭川北 88-62 旭川明成
2回戦 旭川北 73-60 旭川西
準決勝 旭川北 49-101 旭川大学

◇旭川支部春季大会

1回戦 旭川北 88-83 旭川実業
2回戦 旭川北 69-85 旭川大学

◇高体連旭川支部予選会

1回戦 旭川北 81-60 旭川西

女子団体2位

2回戦 旭川北 83-87 旭川実業
2回戦敗退

●女子バスケットボール部

私たちは、プレイヤー3年生2名、2年生5名、1年生1名の計8名で活動しています。部員は少ないですが、限られた練習時間、少ない人数でもそれらをプラスにしてこれまで練習してきました。今年こそ、全道大会出場という目標を達成出来るよう、「心を込めて」頑張ります。

○平成29年度 旭川地区春季バスケットボール選手権大会
1回戦 旭川北 66-65 旭川実業
2回戦 旭川北 53-95 旭川藤女子

○平成29年度 全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会旭川支部予選会
2回戦 旭川北 53-66 旭川龍谷
第25回「キシイカップ」バスケットボール選抜高校新人大会
1回戦 旭川北 49-63 旭川南

○平成29年度 北海道高等学校バスケットボール選手権大会 旭川地区予選会
1回戦 旭川北 91-68 旭川実業
2回戦 旭川北 67-86 旭川南

○平成29年度 旭川支部高等学校バスケットボール春季大会
1回戦 旭川北 72-47 旭川実業
2回戦 旭川北 58-101 旭川藤女子

○第30回 北海道高等学校バスケットボール新人大会旭川地区予選会
1回戦 旭川北 58-69 旭川実業
2回戦 旭川北 59-75 旭川南

●ソフトボール部

私たちソフトボール部は、「打倒旭商！小野崎先生に勝利を！」を目標に顧問の小野崎先生、本田先生をはじめ、たくさんの方々に支えられながら、日々楽しく一生懸命活動しています。夏は合宿や遠征で練習

試合をして経験を積み、冬では個々の技術を上げるために、階段ダッシュや羽打ちをしています。

部員も23名とここ10年間で一番多くなりました。今年の高体連では三年生を中心に守備を鍛えて初めて旭川商業に勝つことができました。全道大会に進出を決め、これからの旭川北高ソフトボール部の新たな1ページに足跡を残すことができました。

新チームでも、先輩方から教わったことを大事にし、新人戦で旭川商業に勝つて、また、全道大会に行けるように、感謝の気持ち忘れずに日々の練習を頑張っていきたいと思っています。どうかこれからも応援をよろしくお願ひします。

●山岳部

山岳部は竹中先生・細野先生・及川先生の指導の下、男子8名女子6名で活動しています。昨年の6月から登った山は旭岳・トムラウシ岳などの大雪山方面、オプタテシケ山・十勝岳・富良野岳などの十勝連峰、芦別岳・天塩岳などです。夏合宿では3泊4日で天人峡からクワウンナイ川を遡行し、旭岳まで縦走して旭岳温泉に下りました。お鉢平ではヒクマが二頭追いかけておもしろいシーンも見ることができました。知床合宿では羅臼岳・硫黄山の縦走、斜里岳登山と充実した3日間を過ごすことができました。

山に登るための装備や食料は自分たちが準備します。時間がかかりますが、自立心が養われます。平日の活動は週3回、ランニングとストレッチを行っています。雨天の場合は地形図の学習や天気図の学習に当たっています。

山岳部は12年連続で全道大会に進出しています。今年の会場は十勝岳温泉上ホロカメットク山・十勝岳・白金温泉の縦走とオプタテシケ山往復で、旭川北高校が当番校です。大会は1校4人のパーティで男子

13校、女子11校が参加します。旭川北高校は久しぶりに女子隊が参加します。登山大会は競争するわけではありませんが、隊行動に遅れない体力と歩行技術があることが上位に入賞する最低限の条件です。また、山に登るだけでなくペーパーテストや行動中テストにより山域の自然（植生・地質・地形）、地図を読む力、気象を読む力、幕営技術など登山に関わる全てのことが審査されます。大会中は原則、顧問と接触できないので4人で協力して4日間を過ごさなければなりません。上位進出目指して頑張ります。

●少林寺拳法部

今年度は、男子13名・女子23名の計36名で活動しています。昨年度の新人戦全道大会では男子規定組演武2位、女子規定組演武2位となり、全国大会出場を果たしました。6月の高体連全道大会では残念ながら全国大会出場を逃しましたが、男子は総合優勝することができました。12月の新人戦では男女ともに全国大会に出場できるように今後も練習に励んでいきたいと思ひます。

H30高体連全道大会（6月16・17日 会場 旭川南高校体育館）成績結果

〈男子〉

団体演武

- 中村③・大根昇③・大根幸③・矢尾③ 岩館③・三井②・長谷川②・山上②組

2位

組演武

- 大根昇②・大根幸②組 3位

単独演武

- 岩館③ 本選出場

見習単独演武

- 伊藤① 1位、板山① 3位、高橋① 6位

- 武井①、小嶋①、山上① 本選出場

総合 1位

〈女子〉

団体演武

- 林③・東③・奥澤③・安原③・志賀③ 森②・安原③・木村②組 3位

組演武

- 林③・志賀③組 6位

- 安原③・奥澤③組、木村②・森②組

単独演武

- 石原③ 本選出場

見習単独演武

- 富宅①、五十嵐友①、川越①

- 本選出場

●アーチエリート部

アーチエリート部は三年十三名、二年二十名、一年十名の計四十三名で活動しています。三年連続で一年生が多数入部し、大変うれしい反面、練習場の確保に苦労しています。

六月六日から帯広の森で行われた春季全道大会（高体連）では、かろうじて男子個人でインターハイの出場権を得ました。インターハイでは少しも上位に食い込めるよう、頑張りたいと思ひます。

現在はインターハイ以外にも、福井国体への出場や、さらに秋季全道大会（新人戦）で全国選抜大会の出場権を得ることを目標に、練習に励んでいます。なお八月に岩手県で開かれる日韓交流事業・全国高等学校ブロック対抗戦（一・二年生の代表選手による強化事業）に、北海道ブロック代表として本校の男子二名・女子二名が出場予定です。出場する四名にとっては初の全国規模の大会となりますが、多くのことを学び、刺激を受け、今後に生かせたらと思ひます。

春季全道大会（六月、帯広の森）男子団体二位

- （齋藤・清井・佐々木・鎌田）

女子団体三位（射場・山崎・真崎・森田）

男子個人五位（浦）

女子個人五位（真崎、松木）

●囲碁部

今年度は、12名で活動しています。9月に行われる大会に向け、日々精進しております。現在のところ、ほとんどの部員は将棋に熱が入っており、囲碁と将棋の二刀流を目指しています。

●吹奏楽部

吹奏楽部は今春一年生十八名を迎え、総勢四十三名で活動しています。北海道音楽大行進や高文連、学校祭演奏やコンクールなど、これから秋にかけて音楽活動が盛んになるシーズンを迎えるため、現在は部員全員が一丸となって精力的に練習に励んでいます。

さらに、来る九月三十日（日）には、第四十三回定期演奏会を旭川市民文化会館にて開催いたしますので、是非会場に足を運んで頂ければと思ひます。

〔平成二十九年年度の活動内容及び成績〕

○高文連上川支部音楽発表大会

吹奏楽コンクール部門 優良賞

○北海道吹奏楽コンクール旭川地区予選

高等学校A編成の部 銀賞

○北海道管楽器個人・アンサンブルコンクール旭川地区予選

打楽器四重奏 金賞

金管八重奏 銀賞

○第四十二回定期演奏会開催（於旭川市民文化会館大ホール）

○末広地区ふれあいコンサート参加

○旭川信用金庫ジョイントコンサート演奏

○イオンモール旭川駅前店三周年記念イベント演奏

●校内活動…入学式・新入生歓迎会・野

球応援・北高祭・卒業式等にて演奏

●美術部

今年度部員は1年生7名、2年生8名、3年生7名の合計22名（男子部員5名）となりました。5月の実技研修会が終わり、現在は北高祭装飾に多くの部員が関わり、連日会議を行っています。例年通り北高祭ポスター、マスコットキャラクターは美術部員の作品が採用されました。北高祭終了後は高文連の作品制作に集中します。ここ数年、15名以上の部員が全道大会へ出場しており、H24、25、27は総文祭（全国大会）へも出品していますので、今年も完成度の高い作品を仕上げてくれることを期待しています。放課後の美術室は部員以外に美術大学志望生徒がデッサンに取り組んでおり、活気があり、よい刺激となっています。

H29全道大会結果

全国推薦1名 全道優秀賞5名 入選8名 参加全18名

●音楽部

音楽部の部室は狭いですが、バンド毎にローテーションを組み、毎日活動しております。北高祭、図書館コンサートやクリスマスイベント等に向けて腕を磨いているところです。

少しでもよい演奏を皆さんに届けられるように、頑張っています。

●書道部

今年度は1年生が8名入部し、2年生10名、3年生2名の合計20名で、北高祭の展示、高文連、その他の書道展に向けて日々作品制作をしています。活動は週3日、毎週金曜日には講師の照井先生にご指導していただき、顧問の高橋幸生先生からのアドバイスなどを参考に技術を磨いていきます。

また、昨年度よりも人数が増えたことにより、書道パフォーマンスへの取り組みも活発になりました。新たな観点から書道と向き合うことができ、とても新鮮な気持ちで有意義な活動ができています。

春休みには上川地区合同合宿に参加しました。今回は例年とは変わって他校の先生方がいる1つの言葉をその場で書く席書会が開かれ、めったにない経験をさせてもらいました。多くの部員がそこで刺激を貰い、自分自身の作品が大きく変わる転換点となりました。さらに、帯広三条高校から講師の先生が来てくださり丁寧なご指導の元、更なる技術の向上に努めました。たくさんの方を学ぶ良いきっかけとなり、充実した合宿となりました。

これからの書道部は、長年続く伝統を守り、それを後輩に継承していくと共に発展させ、より一層邁進していきたいと思っております。そのためにも自らの課題の解決に向けて、日ごろからの努力を惜しまず毎日大切にしながら活動していきます。

●演劇部

昨年度は、5月にチエコの作家カフカの生涯や作品をもとにした「K」という作品を取り上げた高文連上川支部の合同公演を皮切りに、7月の学校祭で1年生中心に「みえつぱり家族」を、10月の高文連では「Peach Wish」とある神様との話、3月には春の演劇祭で「パヴァーヌ」を上演し、年間で4作品に取り組みました。いずれも何ヶ月も前から準備し、良い舞台になったと思います。

今年度は1年生3名、2年生5名、3年生2名の合計10名で活動しています。今年も合同公演に参加し、5月26日(土)に旭川市公会堂で米永道裕作「踊る水華高校」という作品を上演しました。本校部員も2、3年生は昨年度末から、1年生も入学早々に練習を始め、キャストやスタッフとして活

躍しました。近年入場者が増えたため昼と夜の2回公演となりましたが、いずれも盛況でした。他校の演劇部員と知り合うことができ、演劇に関することもいろいろと学べたので有意義な公演でした。

合同公演を終えた今は、学校祭に向けた新しい劇に取り組んでいます。今まで学んできたことをいかしてよりよい舞台を作ろうと練習に励んでいるところです。

●華道部

私たちは現在、3年生1名、2年生4名の計5名で毎週水曜日に楽しく活動しています。

立岩先生にご指導をいただきながら、どんどん新しいことに挑戦しています。毎回違う花材を使って生けているので、なかなか思い通りに表現できないことも多々ありますが、先生のご指導で見違えるように良くなって、勉強になります。

学校祭では、日々の稽古の成果を発揮するため、より一層心を込めて作品を作り上げます。普段とは違う豪華な花材・花器を使う個人の作品の他に、部員みんなで一つのセンターピースを生けます。ご来場の方々に花を通して癒やしを提供できるように工夫しています。

毎年秋にはインターネット花展に出品し、作品はWeb上でご覧いただけるようになっています。出展のため作品をカメラで撮影するなど、普段とはひと味違う新鮮な活動です。

この伝統ある華道部と日本の華道の精神を守り、より一層飛躍していきたいと思えます。

●茶道部

三十年度、一年生の入部は女子十一名で、二年生九名、三年生七名、計二十七名で活動しています。月曜日は芸芸講師の立岩先生のご指導のもと稽古に励み、木曜日は自

主練習で、三年生が中心となり基本練習の席入や帛紗さばき等の割稽古を行っていただきます。また、積極的に校外のお茶会に参加しています。今年度は、五月の同門会の春のお茶会、六月は井上靖記念館で催される「赤い実の洋燈茶会」、十月の秋のお茶会などに参加する予定です。

七月の学校祭は、日頃の活動成果を披露できる唯一の場です。より上達したお手前を披露するために昨年から取り組み、各々が時間をみつけてはお手前の練習に励んでいます。

これからも、歴史ある北高茶道部の伝統を受け継いで、茶道を通して礼儀作法や人を心からもてなす精神を学び、心豊かな人間になれるよう稽古を積んでいきたいと思えます。

●インターアクト部

私たちインターアクト部は、旭川北ロータリークラブのご支援のもと、ボランティア活動を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

インターアクト部は、インターナショナルとアクションを組み合わせた造語で、国際的な視野に立ち、ボランティア活動を通して地域社会に貢献することを目的としています。毎週の定例ミーティングで、「自分たちができること」を部員同士で相談しながら、ボランティア活動に取り組んでいます。活動内容は次の通りです。これから頑張っていきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

- ①美化活動
- ・旭川冬まつり会場跡地の清掃活動
- ・春季・秋季ごみのポイ捨て禁止運動への参加
- ・校内の清掃
- ・学校敷地内および周辺のごみ拾い

- ②募金活動
- ・ペットボトルキャップ・リングブルの回収
- ・赤い羽根共同募金活動の実施ならびに赤い羽根共同募金活動への参加
- ・あしなが学生街頭募金活動への参加
- ・FNSチャリティー募金活動実施
- ・24時間テレビ募金活動(イオン旭川西店)

- ③地域との関わり
- ・障害者スポーツ記録大会
- ・旭川市障害者週間記念事業参加
- ・あったかいねあさひかわ
- ・旭川冬まつり会場ボランティア
- ・学習支援教室(市内小学校)
- ・春光住民児童センター
- ・雪だるまでお出迎え(旭川駅前)

- ④大会参加
- ・国際ロータリー第2500地区インターアクト地区大会
- ・高文連上川支部ボランティア研究大会
- ・高文連全道ボランティア研究大会

●文芸部

2名の卒業生を送り出し、今年度は男子1名女子3名の新人部員を迎え、3年女子1名、2年男子1名の合計6名で活動しています。

人数も増加し部室が一段と賑やかになりました。また、年度末には部誌編集に関する講習会へも参加し編集レベルは確実に上がったものと自負しております。毎年高文連文芸コンクールの部誌部門では、高い評価をいただいておりますが、質ポリウムともにレベルアップしてゆけるよう協力して頑張っております。先輩達から受け継いだ熱い思いを忘れず、作品に活かしていきたいです。

昨年度は上川支部文芸大会が8月24日に開催され、全部員が活躍しました。その後、10月5〜7日に岩見沢で開催された全道大会でも全部員が大健闘し詩部門では部長(砂野)の「クレープ、あるいは特権」が

優秀賞という栄誉をいただきました。
今年度も「書く」ことへの情熱や編集へのこだわりを念頭に、卒業生に続くべく部員一同、互いに高め合いながら、自分たちの最善を尽くして、それぞれの作品そしてそれらを統合させた今できる最良の部誌を作り上げることを目標に活動していきます。

○高文連上川支部文芸研究大会

小説部門 櫻井健太 佳作
詩部門 砂野真佑 最優秀
松藤遥香 佳作

短歌部門 田中理菜 最優秀
松藤遥香 佳作

部誌部門 全道推薦

○高文連全道文芸コンクール

小説部門 櫻井健太 『インセクト』 入選

詩部門 砂野真佑 『クレープ、あるいは特権』 優秀賞

短歌部門

田中理菜 『地に落ちた花にも生を見出して意味はないけどそろりと避ける』 入選

文芸部誌部門 金賞

●放送局

私たち放送局は1年生3人、2年生4人、3年生3人の10人と顧問の佐々木先生、顧問の山本先生で活動しています。

放送局は毎日の生徒の呼び出し放送、北高祭をはじめとする学校行事の音響、撮影、ビデオ編集を行っています。北高祭では準備期間から本祭当日まで仕事が多く大変ですが、その分やりがいを感じられます。また校内の活動だけでなく、年に2回ある大会や街なか学生映画祭などのイベントにも参加しています。今年度のNHK放送コンテスト旭川地区大会ではアナウンス部門3

位、テレビドキュメント部門4位、ラジオドラマ部門4位で全道大会に出場することができました。さらに今年は旭川の買物公園で放送される自転車啓発街頭放送も制作させていただきました。
今後も部員全員で努力し、さらに活躍できるように頑張ります。

●写真部

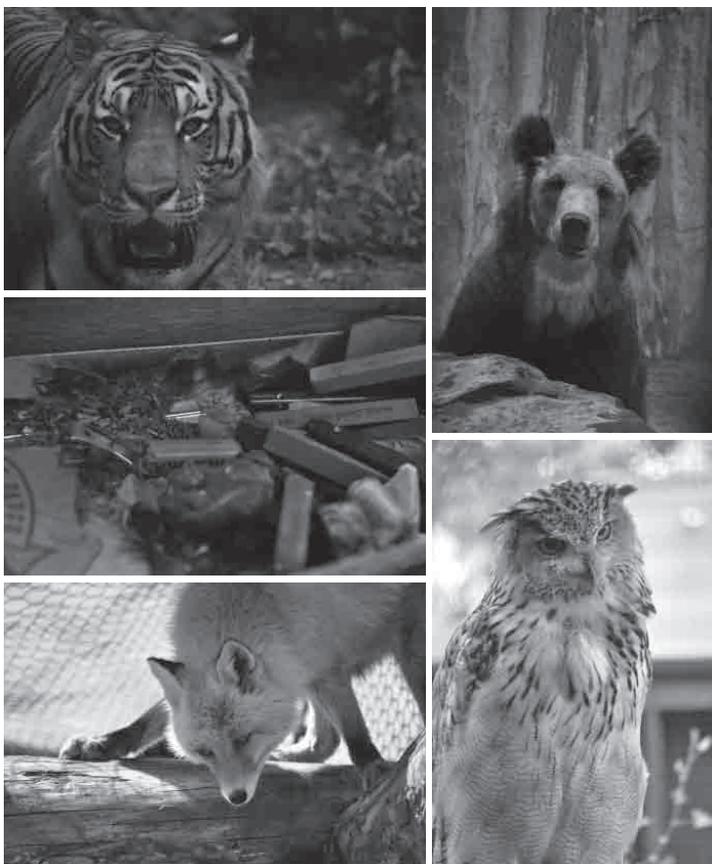
こんにちは、写真部です。
今年度は1年生8人が入部し、2年生9人、3年生8人、顧問の先生2人の合計27人で活動しています。

写真部の主な活動として、写真甲子園や高文連への出展、学校祭の展示、学校行事の撮影、他部活の活動風景の撮影などがあります。

また、現在の3年生の代から、校内での撮影だけでなく校外にも活動の幅を広げ、嵐山公園や旭山動物園などにも赴いています。

学校祭の展示では、文芸部とコラボレーションをしています。内容としては、「写真部がテーマに沿って撮影をして、文芸部がその写真に詩をつける」というものです。これにより、学校祭の展示の幅が広がりました。また、昨年からの展示した作品へのアンケートも実施しています。これを行うことができ、今後の活動への糧になります。これからもこれらの活動を実施していきたいと思っています。

高文連では毎年全道大会に出場しています。しかし近年、全国大会への出場は果



入選した作品

たせていません。今年こそは全道大会のみならず全国大会への出場も目指し、これらの部活動に全力で励んでいきます。

○平成29度高文連上川支部写真展・研究大会
入選(3年中出乃亜)

○写真甲子園コラボ版タウンページの表紙への掲載
(3年中出乃亜)

●理科実験研究部

私達理科実験研究部は三年生が四人、二年生が七人、一年生が七人の計一八人の個性豊かなメンバーで構成されています。人数は例年に比べて多いですが、部員間の仲も良く、全員が真剣に部活動に取り組んでいます。

では私達が普段どんな活動を行っているかというところ、大きく分けて三つあります。一つ目は部員自らが考えたり、顧問の先生が用意した実験を行うことです。ただやみくもに実験を行うのではなく「なぜこのような反応が起きるのか、どうしてこうなるのか」を皆で考え、化学への理解に努めています。二つ目はイベントへの参加です。昨年度は旭川市科学館で実験を行いました。多くの人に理科の楽しさが分かってくるような工夫して実験を行っています。今年度は旭川市科学館での実験と、化学グランプリという全国規模で行われる化学の実力を競うコンテストに参加する予定です。そして三つ目は、高文連に向けての活動です。夏休みに入る頃にはより熱心に研究を行い、論文を作成します。昨年度は地区大会で二班とも総合賞、全道大会では総合賞と奨励賞を頂くことができました。このような結果につながったのは、顧問の先生をはじめとする先生方の協力は元より、先輩方が指導して下さったことによる経験が生きたのだと思います。

三年生は引退するまで残りわずかなので、楽しみつつ、多くのものを後輩達に残していけたらなと思っています。三年生引退後、理研部はまた新たな体制で再スタートを切ることになります。私達三年生が先輩から得たものを後輩達が少しでも感じ取り、また次の世代へと受け継いでいってほしいです。

●応援団

北高応援団は、男子の応援団と女子のチアリーディング部から構成されています。活動目的は、スタルヒン球場での野球応援で、吹奏楽部とともに全校応援の先導役をすることです。現在、応援団は14名、チアリーディング部は28名の、合計42名で活動しています。

応援団は団員が少ないため、少林寺拳法部の男子が団員を兼部してくれています。チアリーディング部は、学生合同文化祭や音楽大行進など、地域のイベントにも参加し、好評を博しています。ダンスが学校教育に取り入れられた世代のためか、近年、個人の技量がとても高くなっています。何はともあれ、また北高野球部が甲子園に出場して、精一杯、応援できることが団員の夢です。

●新聞局

新聞局の局員は現在3名。少人数ではありますが、これまで主に学校行事を中心に記事にして発行を重ねてきました。

取り上げた内容は「校内英語スピーチ大会」・「見学旅行」・「教育実習生の紹介」などです。また、生徒が直接、関わることで、あまりない校長先生にインタビューをして、その素顔を紹介し、「噂の検証」という題で、北高のシベリアと呼ばれる旧体育館につながる廊下は、実際にどれくらい寒いのかを調べた特集記事を書くなど、少しずつ新しい取り組みも増やしています。さらに、学校

祭だよりを定期的に発行し、学校祭の内容や実行委員のメッセージを全校生徒に伝える行事に対して意識を高めてもらおうと努めています。

これまで、全道大会にも参加して、北海道高等学校新聞コンクールでは平成23年には奨励賞、25年には優秀賞をいただいています。

新聞の定期的な発行を始めてから現在で8年目。顧問と生徒も新聞作りを一から学びながら製作に取り組んでいます。研修会ながら、前回よりもさらによいものを目指して活動中です。これからも校内の話題を新聞記事にして面白い新聞作りを目指していきたいと思っています。どうかよろしくお願いします。

E S S

昨年、英語同好会として結成され、今年からESSとして正式に部となりました。顧問の先生2人と2年生5人、1年生20人で活動しています。たくさんの方々が入部してくれたおかげで、とても賑やかです。私たちは週に2回活動しています。活動内容はALTの先生を招いて会話を楽しくしたり、ハロウィンやクリスマスなどの海外の行事を体験するために生徒が中心になってパーティーをしています。それだけではなく、大会にも積極的に参加しています。昨年の10月には札幌で行われたイベント大会に出場しました。議題は「日本は、移民政策を大幅に緩和すべきである。是か否か」というとても難しいものですが、徹底的にリサーチして社会問題にも目を向ける機会になりました。また、今年の5月にはプレゼンテーション大会に参加しました。テーマは「北海道がより多くの外貨を獲得する商品を開発、または紹介するための提案」で、私たちは実際に駅や街にいる外国人にインタビューをしました。どちら



の大会も初出場で、分らないことも多かったのですが、とても貴重な経験になりました。今年は去年の経験を活かし、さらに頑張っていきたいと思っています。

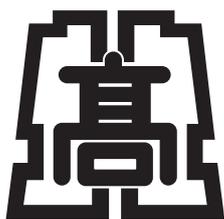
【平成29年度大会結果】

・第18回全道高等学校英語弁論大会ディベートの部
4試合中1勝2敗1引き分け
全16チーム中9位

●生徒会執行部

旭川北高校の生徒会執行部は現在、3年生16名、2年生7名、1年生17名の計40名で活動しています。私たちは学校行事の運営を行っています。その中でも北高祭の運営を最大成として活動しています。また、北高祭以外では、新入生歓迎会や体育大会、

クリスマスイベントなど、多岐にわたり、運営しています。活動していくにあたり、私たちは行事の成功を目標にしていますが、それはただ何事もなく、無事に行事を終わらせれば良いという意味ではありません。生徒や地域の方に心から楽しんでもらっているか、当日までの過程はどうであったかの意味も含んでいます。もちろん、毎回行事が成功するわけではありません。しかし、その度に問題点や解決策を出し、しっかりと自分たちで反省することで、次の運営に繋げていきます。私たち北高執行部は、他の学校の生徒会と比べて人数も多いため、自分たちでできる範囲が広く、昔から自分たちで考え、行動してきました。しかし、執行部は決して私たちだけで活動できるものではありません。生徒の皆さん、職員の方々の皆さん、そして地域の皆様のご協力があることで成り立ちます。私たちはこれからも学校のため、生徒のために日々の努力を惜しみません。同窓会の皆様もお時間をごさいましたら、是非、私たちの活動を見に来てください。北高生一同、心よりお待ちしております。最後にになりましたが、これからも旭川北高校生徒会執行部をよろしくお願ひ致します。



旭川北高

同窓会役員・幹事名簿

●同窓会役員名簿

役職名	氏名	卒業期
顧問	山形 積治	北 8
顧問	西館 勝友	北13
顧問	八重樫和裕	北18
顧問	川島 崇則	北18
会長	尾崎 信彦	北25
副会長	潮 日出夫	北25
副会長	吉村 千鳥	北25
副会長	山本 淳一	北28
副会長	山川 国土	北31
副会長	酒井 保則	北41
副会長	近藤 博之	北43
会計監査	市山 力三	北17
会計監査	庄司 和晴	北18
総務部長	田中 充	北25
総務副部長	菅原 徹	北32
総務副部長	小枝 万美	北32
総務副部長	城 裕一	北25
総務副部長	水口 貴浩	北39
会計部長	富田 公裕	北25
会計副部長	園田 和宏	北33
文化部長	木村 公俊	北25
文化副部長	山中いつ子	北19
文化副部長	鈴木 弥生	北25

役職名	氏名	卒業期
文化副部長	平間 明鑑	北26
文化副部長	小菅千賀子	北29
文化副部長	赤松 浩恵	北30
校内担当	油屋 正	北29
校内担当	本田 晴樹	北32
札幌会会長	武田 寛	北16
札幌会副会長	風間 透	北17
札幌会事務局	松原 幹昌	北31
東京会・顧問	山口 哲男	北18
東京会会長	柿林 博司	北22
東京会副会長	鈴木 隆文	北25
東京会幹事長	佐藤 学	北22
東京会会計部長	高田 範昭	北22
東京会事務局	石井 英朗	北18
東京会事務局	井口 守	北22
東京会事務局	菅原 茂樹	北22
東京会事務局	石垣千恵子	北22
東京会事務局	矢澤 良子	北22
東京会事務局	佐藤 みき	北23
東京会事務局	田隴 美香	北27
東京会事務局	伊藤 幸永	北36
岩手会会長	牛崎 鏝二	北 6

●各期幹事長名簿【定時制課程】

卒業年度	期	氏名
昭32定卒	1	山崎 安光
昭33定卒	2	小泉 貢
昭34定卒	3	
昭35定卒	4	谷口 省一
昭36定卒	5	小林 成吏
昭37定卒	6	金山 紘一
昭38定卒	7	森下 義治
昭39定卒	8	窪田 冠治
昭40定卒	9	小野寺 勤
昭41定卒	10	小林 輝雄
昭42定卒	11	千葉青次郎
昭43定卒	12	田村 篤
昭44定卒	13	神藤 茂晴
昭45定卒	14	松田 誠
昭46定卒	15	深谷富美雄
昭47定卒	16	奥山 寿雄
昭48定卒	17	錦川 敏文
昭49定卒	18	堀井 敏明
昭50定卒	19	千村 敦雄
昭51定卒	20	
昭52定卒	21	小柳 智弘
昭53定卒	22	菅野 敏彦
昭54定卒	23	泉 誠
昭55定卒	24	柴田 仁
昭56定卒	25	川方 和人
昭57定卒	26	中原 泰司
昭58定卒	27	山中 敏行

卒業年度	期	氏名
昭59定卒	28	日塔 浩之
昭60定卒	29	太田 房枝
昭61定卒	30	入野 直美
昭62定卒	31	上林山健次
昭63定卒	32	篠原 誠
平01定卒	33	窪田 竜三
平02定卒	34	新見 稔
平03定卒	35	西尾 悟
平04定卒	36	浅井 智希
平05定卒	37	大橋 恵子
平06定卒	38	早川 立人
平07定卒	39	細川 勝巳
平08定卒	40	遠藤 智康
平09定卒	41	菅原臣一郎
平10定卒	42	岡本 香織
平11定卒	43	渡辺加代子
平12定卒	44	日野 洋一
平13定卒	45	島崎 匡世
平14定卒	46	福島 達
		多田 妙子
平15定卒	47	白田 由佳
		船田 美咲
平16定卒	48	眞田 功嗣
		白井 道恵
平17定卒	49	渡辺 勇太
		田中 裕梨
平18定卒	50	齊藤 尚也

卒業年度	期	氏名
		越山 宏恵
平19定卒	51	小松 純
		笠間まどか
平20定卒	52	大槻 法仁
		石神 明希
平21定卒	53	澤田 涼子
		釜澤 佑紀
平22定卒	54	阿部 貴大
		三浦 淑美
平23定卒	55	白河 卓也
		村岡 愛恵
平24定卒	56	船越 信幸
		大野 春花
平25定卒	57	衛藤 顕太
		辻 江梨花
平26定卒	58	佐藤 健児
		及川 紗希
平27定卒	59	川田 雄也
		千葉 智生
平28定卒	60	千葉藤吉郎
		今野 玲奈
平29定卒	61	今野 修人
		高瀬 弘里
平30定卒	62	菅原 悠介
		木元 実結

●各期幹事長名簿【全日制課程】

卒業年度	期	役職名	氏名
昭21卒	市中1		
昭22卒	市中2	幹事長	吾妻 充
		副幹事長	西村 廣
		副幹事長	畠山 昇子
昭23卒	市中3	幹事長	谷口 孝
昭24卒	市高1	副幹事長	石崎 一夫
		幹事	北原 高男
昭25卒	市高2	幹事長	工藤 博視
昭26卒	1	幹事長	伊藤 努
昭27卒	2	幹事長	林 徹男
昭28卒	3	幹事長	小川 幹雄
		副幹事長	五十嵐 正
昭29卒	4	幹事長	干場 武司
昭30卒	5	幹事長	波岸 順子
昭31卒	6	幹事長	阿部 信行
		副幹事長	九軒 勝志
昭32卒	7	幹事長	瀬川 哲男
昭33卒	8	幹事長	黒須 昌子
昭34卒	9	幹事長	鈴木 紀明
昭35卒	10	幹事長	中村 秀雄
		副幹事長	武田 泰治
昭36卒	11	幹事長	谷中 則親
昭37卒	12	幹事長	杉本 宗敏
		副幹事長	細谷美代子
昭38卒	13	幹事長	石田 邦光
昭39卒	14	幹事長	城 章一
昭40卒	15	幹事長	横山 直史
昭41卒	16	幹事長	廣田 秀美
		副幹事長	齊藤佐智枝
昭42卒	17	幹事長	加藤 修
		副幹事長	大川 孝一
		副幹事長	石田由美子
昭43卒	18	幹事長	庄司 和晴
		副幹事長	池田 定博

卒業年度	期	役職名	氏名
昭44卒	19	幹事長	植村 俊幸
		副幹事長	鳴海 範子
昭45卒	20	幹事長	林 仁彦
昭46卒	21	幹事長	石田 悟
昭47卒	22	幹事長	菊地 一孝
昭48卒	23	幹事長	青山 隆之
昭49卒	24	幹事長	小泉 英一
昭50卒	25	幹事長	山内 一頼
昭51卒	26	幹事長	煙山 泰也
昭52卒	27	幹事長	野村 寛
昭53卒	28	幹事長	持丸 昭郎
昭54卒	29	幹事長	今宮 克明
昭55卒	30	幹事長	原田 一志
昭56卒	31	幹事長	西分 健二
昭57卒	32	幹事長	澤田 俊哉
昭58卒	33	幹事長	武田 聡
昭59卒	34	幹事長	飛騨野文彦
昭60卒	35	幹事長	児玉 賢一
昭61卒	36	幹事長	江渕 賢一
昭62卒	37	幹事長	高田 和憲
昭63卒	38	幹事長	武田 要
平01卒	39	幹事長	水口 貴浩
平02卒	40	幹事長	富樫 明樹
平03卒	41	幹事長	村田 朋輝
平04卒	42	幹事長	細山 崇
平05卒	43	幹事長	佐藤 誉博
平06卒	44	幹事長	山本 幸枝
平07卒	45	幹事長	武田 奈央
平08卒	46	幹事長	上北 泰志
平09卒	47	幹事長	長町 康隆
平10卒	48	幹事長	松井 智弘
平11卒	49	幹事長	池田 謙治
平12卒	50	幹事長	阿部 好幸
平13卒	51	幹事長	宇井 辰徳

卒業年度	期	役職名	氏名
平14卒	52	幹事長	大友 健司
		副幹事長	五十嵐 桂
平15卒	53	幹事長	野田 仁哉
		副幹事長	村田 友哉
平16卒	54	幹事長	楠美 拓也
		副幹事長	中条百合子
平17卒	55	幹事長	北川 智貴
		副幹事長	荒井麻菜実
平18卒	56	幹事長	和賀 裕則
		副幹事長	鈴木 宏始
平19卒	57	幹事長	福森 翔太
		副幹事長	菅野 雅俊
平20卒	58	幹事長	川西 雄太
		副幹事長	伊藤真奈美
平21卒	59	幹事長	泉澤 知宏
		副幹事長	大谷 冬馬
平22卒	60	幹事長	和賀 俊太
		副幹事長	平間 建多
平23卒	61	幹事長	島田 沙理
		副幹事長	佐藤 公耶
平24卒	62	幹事長	丸尾 秀樹
		副幹事長	平岡はるな
平25卒	63	幹事長	東崎 千晶
		副幹事長	吉澤 圭祐
平26卒	64	幹事長	渡辺 悠介
		副幹事長	金子ちひろ
平27卒	65	幹事長	古屋 龍
		副幹事長	下原みのり
平28卒	66	幹事長	吉野竜太郎
		副幹事長	田口 春香
平29卒	67	幹事長	白崎 優太
		副幹事長	三井 沙那
平30卒	68	幹事長	倉橋 高矢
		副幹事長	井上 遥葉

幹事の皆様大変ご苦勞様です

◎各期幹事に異動がありましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

【自宅】〒070-0876 旭川市春光6条2丁目4-2 田中 充

TEL(0166)55-0931 携帯電話 090-7650-8061

【勤務先】旭川市立忠和中学校

TEL(0166)61-5300



当番期

第53回 同窓会実行委員長

北高42期 細山 崇

第53回旭川北高同窓会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。この日を無事迎えるまでに、本当にたくさんの方々に協力いただきました。心より御礼申し上げます。本日もご来場のすべての皆様。不慣れな私たちに快くアドバイスや励ましの言葉を下さった同窓会本部並びに諸先輩方。遠くの地から会誌のご寄稿、広告協賛または会券をご購入頂いた方々。会の司会進行を快く引き受けて下さった西田ひで子様。今日のためたい会に花を添えてくださる出演者の小林亜土様、児玉梨奈様。休日、昼夜と自分の時間を割いて、全力で今日この日の準備のために力を尽くしてくれた同期の皆さん。本当にどうもありがとうございます。さて、皆様にお願ひです。この会誌の巻末に掲載されている200件以上の協賛名をじっくりご覧下さい。本日の会を支えて下さった皆様です。各期の諸先輩方、会社や店舗の経営者の皆様、病院、法律事務所、薬剤師、カーディーラー、市役所、教育関係、塾、飲食店、等々、この旭川の社会と

経済を支えている同窓生の皆様のご活躍を改めて肌身を感じ、誇らしく思います。今後とも、あらゆる場で活用させていただき、ますます北高同窓生としてのネットワークを広めてまいりましょう。ふりかえりますと、42期の私たちにとりましては、この一年は、不安から希望への長い道のりでした。同窓会の準備のために、一人、また一人と集うメンバーと力を合わせ、難しい課題をクリアしていく過程で絆は深まり、心強い、尊敬すべき仲間となりました。いつも自分の力だけでは何も出来ず、無力さを痛感したからこそ、優秀で頼りになる仲間たちの存在が、本当に心強かったです。結びになります。北高同窓会の活動を通して一生ものの貴重な社会勉強をさせていただきました。この一年で出会えた、多くの皆様とこの縁に感謝いたします。旭川北高および旭川北高同窓会のさらなるご発展と同窓生の皆様のご健康とご活躍を心より祈念し、当番期幹事長のご挨拶とさせていただきます。



次期当番期

第54回 同窓会実行委員長

北高43期 佐藤 誉博

第53回旭川北高等学校同窓会の開催、誠にありがとうございます。私は第43期同窓会幹事長の佐藤と申します。高校時代は部活動と趣味に明け暮れるだけの毎日、優等生とは程遠い3年間を過ごしておりました。そんな私がこのような大役を仰せつかって良いものかと、未だに半信半疑な気持ちで一杯でございます。そうなんです、卒業間近に決まる本来の幹事長は私などでは当然なく、隣のクラスの別の者だったのです。一寸先のことも考えていなかった学生生活を終え、それなりの社会人となった私は、仕事の絡みを中心に同窓の諸先輩とのご縁が増えていく中で、サブ幹事期を迎えることを知り、若輩者ながら拙いお手伝いをさせていただいたのが4年前。時が過ぎるのはあっという間で、ついに来年は私たちが43期が当番期を迎えることになりました。本来の幹事長は現在も地元におらず、結果として旭川在住の私が責務を引き継ぐことになりました。人生なにか起こるか本当にわからないものだと実感しております。

私たちが43期が高校を卒業したのが平成5年。それから四半世紀を経て、当番期となる来年は新元号の幕開けと重なります。高校在学当時は、まだ携帯電話やインターネットが普及しておらず、昭和の名残が漂うアナログとデジタルの境目な時代でした。この原稿を書くにあたって、気持ちだけ青臭くタイムスリップした、若い「つもり」の次期当番期幹事長でございます。まあ、過去に戻って高校生活をやり直せるのなら、私は北高祭のフォークダンスを再び楽しみたいですね。理由は皆様お察しの通りですが、あえて答えは秘密といたすことと承知ください。すいません。話が脱線してしまいがちです。旭川北高並びに旭川北高同窓会の益々のご発展と本日の同窓会の盛会を祈念いたしまして、次期当番期幹事長の挨拶とさせていただきます。来年の同窓会へのご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

第53回 旭川北高同窓会総会

この日 あの時



旭川北高42期一同

北高同窓会公式ウェブサイト

<http://kitako-dousou.com>

応援歌

ねっせるちしおやけんじのき そのなもた一かききたこの
 えいーよ さんたり わがともーよ
 たたか わん いきーも ひのごとし

応援歌

高橋国二 作詞
 熊崎清志 作曲

一、熱せる血潮や 健児の気
 その名も高き(北高)の
 栄誉燦たり 我が友よ

戦わん意気も 火の如し

二、見おや祖国の 中堅と

その名も高き(北高)の
 鍛えあげたる 我が選手
 邀える敵も 何のその

三、青空高き

グラウンドに 優勝の旗うち振りて
 天にも轟く 万才の
 勝関あげむ 我を見よ



旭川北高同窓会だより 第42号 平成30年8月11日発行

発行所／旭川北高等学校同窓会（旭川市花咲町3）

発行人／同窓会会長 尾崎 信彦

編集／旭川北高等学校同窓会文化部・旭川北高等学校同窓会第53回総会実行委員会

印刷／榊総北海 旭川市工業団地2条1丁目1番23号 TEL(0166)36-5556

第53回 旭川北高等学校 同窓会総会

◇総会次第

1. 開 会 の こ と ば
2. 校 歌 斉 唱
3. 来 賓 紹 介
4. 同 窓 会 会 長 挨 拶
5. 来 賓 挨 拶
6. 議 長 団 選 出
7. 議 事
(1) 会 務 報 告
(2) 会 計 報 告
(3) 会 計 監 査 報 告
(4) 次 期 当 番 期 紹 介
(5) そ の 他
8. 議 長 団 退 任
9. 招 待 期 紹 介
10. 閉 会 の こ と ば

◇懇親会次第

1. 開 会 の こ と ば
2. 実 行 委 員 長 挨 拶
3. 開 演
(1) 応 援 歌 斉 唱
(2) 乾 杯
(3) アトラクション
4. 次 期 当 番 期 代 表 挨 拶
5. 閉 会 の こ と ば
6. 結 び (北 高 万 歳 三 唱)